

藥 学 部

氏名 熊崎 隆 (KUMAZAKI, Takashi)

所属 薬学部薬学科

職種 教授、薬学部長

生年月日 1949年8月28日

[履 歴]

[学 歴]

1973年3月 北海道大学薬学部製薬化学科卒業

1975年3月 北海道大学大学院薬学研究科製薬化学専攻修士課程修了

[学 位]

1981年9月 薬学博士 (北海道大学)

[職 歴]

1975年7月 大阪大学蛋白質研究所共同研究員 (1976年3月まで)

1977年9月 北海道大学薬学部製薬化学科助手

1982年7月 City of Hope National Medical Center (米国)

博士研究員 (1984年8月まで)

1998年4月 北海道大学大学院薬学研究科生体分子薬学専攻助教授

1999年4月 青森大学工学部生物工学科教授

2001年4月 青森大学大学院環境科学研究科教授(併任)

2004年4月 青森大学薬学部教授

2006年4月 青森大学薬学部薬学科長

2012年4月 青森大学薬学部学部長 (現在に至る)

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本薬学会、日本生化学会、日本蛋白質科学会

[教育活動]

[担当科目]

生物物理化学、機器分析学、創薬学総論、キャリアデザイン IA、基礎薬学実習、分析化学・放射化学実習、薬学総合演習 I、薬学総合演習 II、特別実習

[卒業研究指導]

2011年度 5名、2012年度 4名、2013年度 3名、2015年度 3名

[ゼミ指導]

薬学部担任制で各学年 3名程度を受け持っている。

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験支援のための補講を行っている。
2. 共用試験 (CBT、OSCE) 対策のための補講を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. プロテアーゼインヒビターの酵素阻害機構解析と薬用資源としての有用性検討
2. 遊離ヘモグロビン代謝機構の生化学的解析

[論文、著書、総説]

Hemmi H., Kumazaki T., Kojima S., Yoshida T., Ohkubo T., Yokosawa H., Miura K., and Kobayashi Y.: Increasing the hydrolysis constant of the reactive site upon

introduction of an engineered Cys14-Cys39 bond into the ovomucoid third domain from silver pheasant. *J. Pept. Sci.* 17(8):595-600 (2011)

Ishii S., and Kumazaki T.: Chapter 116, Glyselysin, in *Handbook of Proteolytic Enzymes*, 3rd Edition (Barett A.J., Rrawlings N.D., and Woessner J.F., eds), Academic Press (2012)

[学会発表]

金光兵衛、柳谷和美、熊崎 隆: cSRCR と細菌との相互作用、第 51 回日本薬学会東北支部大会 2013 年 10 月 (青森)

[その他の活動]

特記事項なし

[公開講座、講演、セミナー]

「これからの青森大学」(後援会宮城支部研修会) 於仙台市中央市民センター 2013 年 6 月

「薬学部の概要・薬学系の研究」(高校 1 年生対象薬学系出前講座) 於青森県立三本木高校 2013 年 7 月

「科学者の卵たちに贈る言葉」(平成 25 年度科学の甲子園青森大会) 於青森県総合学校教育センター 2013 年 11 月

「実験・演習から学ぶ分析科学」(教員免許状更新講習会) 於青森大学 2014 年 7 月

「青森大学職場体験 (青森市立西中学校生徒対象)」 於青森大学 2014 年 7 月

[学内各種委員]

2012~2014 年度 (薬学部長): 大学協議会、部長会、入試管理委員会、入試選抜委員会、学生募集委員会、地域貢献委員会、資格審査委員会、自己点検評価委員会、将来計画委員会等

氏名 上田 條二 (UEDA Joji)

所属 薬学部薬学科

職名 教授・薬学科長

生年月日 1947 年 2 月 3 日

[履 歴]

[学 歴]

1969 年 3 月 東北薬科大学薬学部薬学科卒業

1971 年 3 月 東北薬科大学大学院修士課程修了

[学 位]

薬学博士

[職 歴]

1971 年 4 月 東北薬科大学助手

1980 年 4 月 東北薬科大学講師

1993 年 4 月 東北薬科大学助教授

2004 年 4 月 青森大学薬学部教授 (現在に至る)

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本薬学会、日本農芸化学会、日本生薬学会

[教育活動]

[担当科目]

薬学部：生薬学、天然物化学、漢方薬学概論、有機化学・天然物化学実習、
薬学総合演習 I、実務実習事前実習、特別実習

大学院：環境分子生物学、自然資源環境論

[卒業研究指導]

2006 年度 卒業研究：1 名

2007 年度 卒業研究：2 名

2008 年度 卒業研究：3 名

2009 年度 卒業研究：1 名

2010 年度 卒業研究：4 名

2011 年度 卒業研究：5 名

2012 年度 卒業研究：9 名

2013 年度 卒業研究：14 名

[ゼミ指導]

薬学部担任制で各学年 2～4 名を指導

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験支援のため、補講を行っている。
2. 共用試験支援のため、補講を行っている。
3. 薬の原点を知るため、薬用植物園見学を行っている。
4. 漢方薬の理解を深めるため、希望者に漢方薬のゼミを行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 植物成分の構造解析及びその薬理活性。
2. 漢方湯液中の有効成分の解明 (漢方薬がなぜ効くのかを科学的に解明する)。

3. 健康補助食品の開発

[著書、論文、総説]

特記事項なし

[学会発表]

1. 食品機能性の開発研究、マウス末梢血流量の改善作用について 日本生薬学会 第 54 年会
2. 食品機能性の開発研究、マウス末梢血流量の改善作用について その 2 日本農芸化学会 2008 年度大会 (名古屋) 2008

[研究費の取得状況]

共同研究

1. 2006 年 各種生薬・食品成分の血流改善効果の評価 (株)ロッテ 1,265,000 円
2. 2009 年 ドジョウの成分研究 株式会社 竹田測量設計 600,000 円
3. 2009 年 各種界面活性剤、配合剤の溶血性評価 株式会社 ブレストシーブ 2,400,000 円
4. 2010 年 ドジョウの成分研究 株式会社 竹田測量設計 600,000 円

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

出張講義:

- 生活習慣病と薬用植物について 日本薬用植物友の会 2006 年 8 月 5 日
身近な薬草について 青森市中央市民センター 2006 年 9 月 6 日
身近な民間薬・漢方はなぜ効くのか むつ市中央公民館 2006 年 2 月 15 日
漢方はなぜ効くの? オープンカレッジ市民大学 2007 年 6 月 15 日
タバコと健康 青森山田学園校務員研修会 2007 年 9 月 1 日
民間薬と健康食品 機能性食品開発センター 2007 年 10 月 29 日
医療現場における漢方の使い方 (株)医薬品情報センター 2009 年 11 月 20 日
身近な民間薬 後援会秋田支部研修会 2009 年 11 月 29 日
身近な民間薬 青森市中央市民センター 2009 年 12 月 2 日
身近な民間薬 青森市中央市民センター 2009 年 1 月 28 日
漢方概論 株式会社医薬品情報センター 2009 年 2 月 12 日

[学内各種委員]

学生募集連絡会

教務委員

就職委員

入試管理委員

入試選抜委員

[学外各種委員]

日本生薬学会 代議員

日本薬学会 代議員

日本薬学会東北支部 副部長

青森県登録販売員試験委員会

氏名 大上 哲也 (OHGAMI, Tetsuya)

所属 薬学部

職種 教授

生年月日 1958年12月23日

【履 歴】

【学 歴】

1983年3月 岐阜市立 岐阜薬科大学薬学部厚生薬学科卒業

1985年3月 岐阜市立 岐阜薬科大学大学院修士課程（医療薬学コース）修了

【学 位】

1993年12月 薬学博士

【職 歴】

1985年4月 協和発酵工業株式会社（現、協和発酵キリン株式会社）宇部研究所

1996年1月 三菱化学株式会社（現、田辺三菱製薬株式会社）横浜総合研究所主任研究員

2004年9月 株式会社阪神調剤薬局 教育研修部部长

2011年4月 クオール株式会社 西日本第一事業部長、薬局支援本部担当部長

2014年4月 青森大学 薬学部教授（現在に至る）

【非常勤講師歴】

2008年4月～2015年3月 兵庫医科大学医学部 生理学教室(生体情報部門)非常勤講師

2009年4月～2013年3月 神戸薬科大学 非常勤講師（社会保障、薬剤経済）

2014年6月～現在に至る 東北大学大学院医学研究科（病態神経学）非常勤講師

2015年5月～現在に至る 弘前大学大学院医学研究科（脳神経内科学）非常勤講師

【研究生・専修生歴】

1989年4月 九州大学 医学部 神経病理学教室 研究生

1990年4月 九州大学 医学部 神経病理学教室 研究生修了、専修生として継続在籍

1996年3月 九州大学 医学部 神経病理学教室 専修生修了

【受 賞】

2013年11月 日本薬局学会 功労賞受賞

【所属学会】

日本認知症学会、日本薬局学会、日本薬剤師会、認知症の人と家族の会

【教育活動】

【担当科目】

薬物療法学Ⅰ、薬物療法学Ⅱ、薬学総合演習Ⅱ、調剤実習、実務実習事前学習、実務実習、

臨床薬学、特別実習、キャリアデザイン1A（一部担当）、医薬品情報学（一部担当）、学問のすすめ

【卒業研究指導・研究生の研究指導】

2014年4月より着任し開始。4年生3名、5年生3名、6年生1名、研究生1名

【ゼミ指導】

2014年 担任制により1年生3名、2年生3名、4年生3名、5年生3名、6年生1名

（備考：2014年4月着任）

【教育指導に関する特記事項】

1. 薬剤師国家試験合格支援のため補講を行っている。
2. 成績不振の学生に対して、補講を行ない学生の学力向上に努めている。
3. 研究室の疾患テーマである認知症を中心に、「地域のチーム医療～医療と介護の連携」

並びに「地域医療貢献」について、研修室ゼミの演習により学生の理解を深めさせている。

【研究活動】

【研究室のスローガン】 認知症の方々の杖となれるよう

【研究テーマ】

1. 認知症、特にアルツハイマー病等の認知症変性疾患の発症機構の解明
2. 認知症在宅医療における薬学臨床的研究
3. 認知症の地域医療ネットワークの構築並びに認知症啓発活動

【主な著書、論文、総説】

1. Ohgami, T., Kitamoto, T., Shin, R.W., Ogomori, K, Tateishi, J: “ Increased senile plaques without microglia in Alzheimer’ s disease”, *Acta Neuropathol.*81, 242-247, 1991

2. Ohgami, T., Kitamoto, T., Tateishi, J : “Alzheimer’ s amyloid precursor protein-positive degenerative neurites exist even with Kuru plaques, not specific to Alzheimer’ s disease”, *Am. J. Pathol.* 139 , 1245-1250, 1991

3. Ohgami, T., Kitamoto, T., Tateishi, J : “Alzheimer’ s amyloid precursor protein accumulates within axonal swellings in human brain lesions”, *Neurosci. Lett.*136, 75-78, 1992

4. Ohgami, T., Kitamoto, T., Tateishi, J: “Alzheimer’ s amyloid precursor protein mRNA without exon 15 is ubiquitously expressed except in the rat central nervous system”, *Mol. Brain Res.*20, 240-244, 1993

5. Ohgami, T., Kitamoto, T., Tateishi, J : “ The rat central nervous system expresses Alzheimer’ s amyloid precursor protein APP695, but not APP 677 (L-APP form)”, *J. Neurochem.*61, 1553-1556, 1993

6. Ohta, M., Kitamoto, T., Iwaki, T., T, Ohgami, T. , Fukui, M, Tateishi, J. : “Immunohistochemical distribution of amyloid precursor protein during normal rat development”, *Develop.Brain Res.*75, 151-161, 1993

7. 納屋聖、大上哲也、出口隆志 : 幼若ラットを用いた皮下投与による 4 週間反復投与毒性試験, *基礎と臨床* 29 (7), 1837-1867, 1995

8. Kitayama, J., Kitazono, T., Ooboshi, H, Ago, T, Ohgami, T., Fujishima, M, Ibayashi, J. : “Chronic administration of tyrosine kinase inhibitors functional and morphological changes of the basal artery during chronic hypertension”, *Hypertension* 20, 2205-2211, 2002

9. Kakinoki, B, Sekimoto, S, Yuki, S, Ohgami, T., Sejima, M, Yamagami, K, Saito, K : “Orally active neurotrophin-enhancing agent protects against dysfunctions of the peripheral nerves in hyperglycemic animals. ”, *Diabetes*55 (3), 616-621, 2006

10. Kawase, A, Ohgami, T., Yoshida, I, Tsunokuni, Y, Iwaki, M : “Little diurnal variation of nuclear receptors in mice with or without fasting”, *Pharmacology & Pharmacy* 4, 240-243, 2013

11. 榎原幹夫、大上哲也、水野由夏、藤原 武、金澤智美、川原淳、原正朝、亀井浩行、金田大太、森啓、「認知症認定薬剤師制度の必要性」、*薬局薬学*、124-132、2014 ; 6

【学会発表】

1. 大上哲也、久米俊行、青山英昭、久保完治 : 「ヒト乳癌組織内金属に関する研究:アントラサイクリン系抗癌剤の効果発現機序に及ぼす影響」, 日本癌学会, 1985

2. 大上哲也、久米俊行、青山英昭、久保完治、杉浦衛 : 「ヒト乳癌組織内金属に関する研究:アントラサイクリン系抗癌剤の効果発現機序に及ぼす影響」, 日本薬学会, 1985

3. 久米俊行、大上哲也、青山英昭、久保完治、杉浦衛：「ヒト乳癌組織内金属に関する研究:シスプラチンの抗腫瘍効果発現機序に及ぼす影響」, 日本薬学会, 1986.

4. 大上哲也、北本哲之、立石潤、Beyreuther, K : “ Increased senile plaques without microglia in Alzheimer’ s disease”, 国際神経病理学会, 1991

5. 大上哲也、北本哲之、辛龍雲、立石潤：「βアミロイド前駆体蛋白 (APP)は老人斑だけでなくクル斑にも蓄積する」, 日本神経病理学会, 1991

6. 大上哲也、北本哲之、立石潤：「βアミロイド前駆体蛋白 (APP)は変性軸索内に蓄積している」, 日本神経病理学会, 1992

7. 太田正流、大上哲也、北本哲之、立石潤：「ラット胎児期におけるβアミロイド前駆体蛋白 (APP)の発現」, 日本神経病理学会, 1993

8. 大上哲也、北本哲之、立石潤：「新規の L-APP 分子 (APP677)の発現」, 日本神経病理学会, 1993

9. 大上哲也、北本哲之、立石潤： “ The rat central nervous system expresses Alzheimer’ s amyloid precursor protein APP695, but not APP 677 (L-APP form)”, 日本神経病理学会, 1994

10. 大上哲也、新谷瀧子、岡原一徳：「認知症地域ネットワークの構築～よあけ会の設立」, 日本薬局学会, 2007

11. 杉森直美、小林智子、三輪裕美子、宮本陽子、筒井由貴子、大上哲也：実務実習を通して、調剤過誤の観点において学んだこと～共に学び共に育つ～, 日本薬局学会, 2010

12. 野呂暁、一井定信、越後尚恵、中山慧哉、森祐輔、森啓、大上哲也：在宅訪問薬剤師ができる簡便な認知機能の把握方法の検討、日本薬局学会, 2014

【公開講座、講演、セミナー】

1. 公開シンポジウム「これからの社会に求められる薬剤師像」、第2回朝日新聞 薬剤師シンポジウム、2008年3月(名古屋)

2. 教育セミナー「服薬指導の要点と薬歴～認知症～」、日本保険薬局協会関西服薬指導懇話会、2009年9月(大阪)

3. 教育セミナー「薬局で研究しよう～テーマ探しのコツ」、日本薬局学会、2012年10月(福岡)

4. 幸畑地区高齢者研修会、テーマ：認知症、2014年8月(青森)

5. 認知症サポーター養成講座、2014年10月(青森大学 模擬薬局)

6. 青森大学公開講座「まちなかキャンパス」テーマ：認知症、2014年12月

7. 出張講義 油川寿大学院 テーマ：認知症と治療薬、2015年1月(青森)

【社会貢献活動】

1. 大上研究室主催「第1回 青森オレンジ文化祭」を企画・開催、2014年10月(青森)

後援：日本認知症学会、青森市、五所川原市、深浦町、青森市教育委員会、
広告協賛：エーザイ株式会社

2. こどもゆめ基金助成活動：

・中学生対象教育セミナー 「薬剤師をやってみよう！」2015年1月、2月(青森)

・高校生対象教育セミナー 「薬剤師をやってみよう！」2015年2月(青森)

・中学生対象教育セミナー 「ミクロの世界へ」2015年2月(青森、日本認知症学会後援)

・高校生対象教育セミナー 「ミクロの世界へ」2015年2月(青森、日本認知症学会後援)

【学内各種委員】

青森大学医の倫理委員会(委員長)、事前実習実施委員会(委員長)、卒業試験委員会、OSCE運営委員会、実務実習実施委員会、ワークショップ委員会、薬学教育評価機構対策

委員会、

日本高等教育評価機構対策委員会

[学外各種委員]

日本薬局学会 学術雑誌編集委員会 副委員長

日本薬局学会 倫理委員会倫理委員

日本薬局学会 学術大会プログラム委員兼査読委員

氏名 小笠原 恵子

所属 薬学部

職種 教授

生年月日 昭和 28 年 4 月 19 日

【履歴】

【学歴】 昭和 52 年 3 月北里大学薬学部薬学科卒業

【職歴】 昭和 52 年 4 月十和田市立中央病院薬局入局

平成 8 年 4 月十和田市立中央病院薬剤長昇格

平成 12 年 4 月十和田市立中央病院薬局長就任

平成 26 年 3 月十和田市立中央病院定年退職

【受賞】 平成 26 年 5 月 日本病院薬剤師会功劳賞

【所属学会】 日本緩和医療学会、日本緩和医療薬学会

【教育活動】

【担当科目】 臨床薬学

【卒業研究指導】 文献調査研究

【ゼミ指導】 在宅医療の現場を学ぶ。「緩和ケアチームにおける薬剤師の役割」を中心として

【教育指導に関する特記事項】 病院薬剤師として臨床現場で積んできた実務経験を生かし
チーム医療の一員として貢献できる知識・技術・マインドを持った薬剤師の育成を目指す。

【研究活動】

【研究テーマ】 緩和ケアと地域連携

【その他の活動】

青森県薬剤師会理事（上十三地区薬剤師会副支部長）・十和田市民大学講座企画運営委員

【学内各種委員会】

教務委員会・OSCE 運営委員会・事前学習実施委員会・実務実習実施委員会・ワークショップ委員会・生涯教育委員会

氏名 長内 有 (OSANAI You)

所属 薬学部薬学科

職名 教授

生年月日 1950 年 5 月 21 日

【履 歴】

【学 歴】

1975 年 3 月 北海道大学理学部化学第 2 学科卒業

1978 年 3 月 北海道大学理学研究科博士前期課程終了

1984 年 3 月 北海道大学理学研究科博士後期課程単位修得満期退学

【学 位】

1991 年 6 月 理学博士 (北海道大学)

【職 歴】

1980 年 4 月 北海道立札幌北高等学校非常勤講師 (定時制課程)

1983 年 3 月まで (数学)

1980 年 4 月 札幌予備学院非常勤講師 1993 年 3 月まで (化学)

1993 年 4 月 青森大学助手 (工学部情報システム工学科)

1995 年 4 月 青森大学助教授 (経営学部経営学科、総合研究所)

2004 年 4 月 青森大学助教授 (薬学部医療薬学科)

2006 年 4 月 青森大学教授 (薬学部薬学科) (現在に至る)

【受賞】

特記事項なし

【所属学会】

日本物理学会、日本化学会

【教育活動】

【担当科目】

基礎化学 I、基礎化学 II、物理化学 I、物理化学 II

【卒業研究指導】

2011 年卒業研究： 2 名

2012 年卒業研究： 3 名

2013 年卒業研究： 4 名

【ゼミ指導】

薬学部担任制で各学年 3 ～ 6 名を指導

【教育指導に関する特記事項】

1. 数学および物理学の学力不足を補うため、基礎化学および物理化学の講義の中で必要に応じて高校数学・物理にまで遡って解説している。
2. 演習時間の不足を補うため、各回の講義において課題を出し、その提出をもって出席に代えていた。しかし、近年、学生の学力並びに勉学意欲の劣化に伴い白紙の提出者が増え、効果が疑わしく、対策を検討している。

【研究活動】

【研究テーマ】

- (1) 相対論効果を考慮した原子価軌道および電子相関用基底関数の開発
- (2) 配置間相互作用法による原子の電子状態の精密計算
- (3) R-行列法による原子過程の理論的研究

【著書、論文、総説】

1. T. Noro, M. Sekiya, Y. Osanai, T. Koga and H. Matsuyama: Relativistic Correlating basis sets for Actinide atoms from 90Th to 103Lr, *J. Comput. Chem.* 28, 2511-2516 (2007)
2. Y. Osanai, M. S. Mon, T. Noro, H. Mori, H. Nakashima, M. Klobukowski and E. Miyoshi: Revised model core potentials for first-row transition-metal atoms from Sc to Zn, *Chem. Phys. Lett.* 452, 210-214 (2008)
3. Y. Osanai, E. Soejima, T. Noro, H. Mori, M. S. Mon, M. Klobukowski and E. Miyoshi: Revised model core potentials for second-row transition-metal atoms from Y to Cd, *Chem. Phys. Lett.* 463, 230-234 (2008)
4. H. Mori, K. Ueno-Noto, Y. Osanai, T. Noro, T. Fujiwara, M. Klobukowski and E. Miyoshi: Revised model core potentials for third-row transition-metal atoms from Lu to Hg, *Chem. Phys. Lett.* 476, 317-322 (2009)
5. T. Fujiwara, H. Mori, Y. Mochizuki, Y. Osanai and E. Miyoshi: 4f-in-core model core potentials for trivalent lanthanides, *Chem. Phys. Lett.* 510, 261-266 (2011)

[学会発表]

1. M. Sekiya, T. Noro, Y. Osanai, T. Koga, and H. Matsuyama: Relativistic correlating basis sets for actinide atoms from Th to Lr, XIIth International Congress of Quantum Chemistry, Kyoto, 2006 年 5 月
2. T. Noro, M. Sekiya, Y. Osanai, E. Miyoshi, T. Koga, and H. Tatewaki: Web Application of Segmented CGTF Basis Sets for the Atoms from H to Lr, XIIth International Congress of Quantum Chemistry, Kyoto, 2006 年 5 月
3. 関谷 雅弘, 野呂 武司, 長内 有, 古賀 俊勝, 松山 氷, 三好 永作: Th から Lr のアクチノイド元素に対する相対論効果を考慮した電子相関用基底関数, 分子構造総合討論会, 静岡, 2006 年 9 月
4. 長内 有, 三好 永作, 野呂 武司, 森 寛敏, 中島 久樹, Ma San Mon, M. Klobukowski: 第 1 遷移金属原子に対するモデル内殻ポテンシャルの改良, 第 1 回分子科学討論会, 仙台 2007 年 9 月
5. 長内 有, 副島 英子, Ma San Mon, 三好 永作, 野呂 武司, 森 寛敏, M. Klobukowski: 第 2 遷移金属原子に対するモデル内殻ポテンシャルの改良, 第 2 回分子科学討論会, 福岡, 2008 年 9 月
6. 能登 香, 森 寛敏, 長内 有, 野呂 武司, 藤原 崇幸, M. Klobukowski, 三好 永作: 第 3 遷移金属原子に対するモデル内殻ポテンシャルの改良, 第 12 回理論化学討論会, 東京, 2009 年 5 月
7. H. Mori, K. Ueno-Noto, M. S. Mon, S. Tsukamoto, T. Zeng, T. Fujiwara, E. Soejima, Y. Osanai, T. Noro, M. Klobukowski, E. Miyoshi: Recent developments and applications of Relativistic Model Core Potentials for Heavy elements, XIIIth International Congress of Quantum Chemistry Satellite Meeting: Molecular Properties (MP2009), Oslo, Norway, 2009 年 6 月
8. K. Ueno-Noto, H. Mori, Y. Osanai, T. Noro, T. Fujiwara, M. Klobukowski, E. Miyoshi: Revised Model Core Potential for Third-Row Transition Metal Atoms From Lu to Hg, XIIIth International Congress of Quantum Chemistry (ICQC 2009), B136, Helsinki, Finland, 2009 年 6 月
9. 森 寛敏, 藤原 崇幸, 望月 祐志, 長内 有, 三好永作: 3 価ランタニドイオンに

対する 4f-in-core モデル内殻ポテンシャル法の開発, 日本化学会 第5回関東支部大会 2011, PB1b012, 小金井, 2011 年 8 月

[研究費の取得状況]

特記事項なし

[その他の活動]

【学内各種委員】

入試管理委員会

入試選抜委員会

氏名 清川 繁人 (KIYOKAWA Shigeto)

所属 薬学部薬学科

職名 准教授

生年月日 1960年7月11日

【履 歴】

【学 歴】

1984年3月 筑波大学第二学群生物学類卒業

【学 位】

1999年 農学博士 千葉大学

【職 歴】

1984年4月 協和発酵工業株式会社生物研究所研究員

1993年4月 青森大学工学部講師

2000年4月 青森大学工学部助教授

2004年4月 青森大学薬学部助教授

2007年4月 青森大学薬学部准教授

2015年4月 青森大学薬学部教授（現在に至る）

【所属学会】

日本植物生理学会、日本植物細胞分子生物学会

【教育活動】

【担当科目】

薬学部：生化学Ⅰ、分子生物学、遺伝子工学、生化学実習、実務実習事前実習、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、特別実習

【卒業研究指導】

2014年 卒業研究： 4名

【ゼミ指導】

2014年度 24名

【教育指導に関する特記事項】

1. 講義ではマルチメディア機器を積極的に利用し、主に自らが撮影した独自の映像を映して学生の理解度向上を図っている。
2. 国家試験合格に向け、主に精神面でのバックアップを行っている。

【研究活動】

【研究テーマ】

- (1) ゲノム配列の多型解析による日本人のルーツに関する研究
- (2) 遺伝子多型解析のオーダーメイド医療への応用
- (3) ゲノム情報を利用した青森県における短命県解消への試み
- (4) 陸奥湾を回遊するイルカの生態に関する研究

【著書、論文、総説】

清川繁人（分担執筆）： 植物バイオテクノロジー、幸書房、2009、5月

【研究助成】

公益財団法人青森学術文化振興財団助成金 「陸奥湾を回遊するイルカの生態に関する研究」

【その他の活動】

【公開講座、講演、セミナー】

植物バイオテクノロジー 柏木農業高校 2010年1月

植物バイオテクノロジー 柏木農業高校 2011年1月
植物バイオテクノロジー 柏木農業高校 2012年1月
植物バイオテクノロジー 柏木農業高校 2013年1月
植物ポリフェノール 青森大学オープンカレッジ 2013年6月
植物バイオテクノロジー 柏木農業高校 2014年1月

【学内各種委員】

全学学生委員会委員、2010年4月～2015年3月
組換えDNA安全委員会委員長、2010年4月～2015年3月
ハラスメント防止対策委員会委員、2010年4月～2015年3月
学生募集委員会委員、2010年4月～2015年3月

氏名 齊藤 弘子 (SAITO Hiroko)

所属 薬学部薬学科

職名 准教授

生年月日 1955 年 4 月 19 日

【履 歴】

【学 歴】

1978 年 3 月 共立薬科大学薬学部薬学科卒業

【学 位】

歯学博士

【職 歴】

1978 年 6 月 岩手医科大学歯学部歯科薬理学講座副手

1978 年 10 月 岩手医科大学歯学部歯科理工学講座助手

歯科薬理学講座配置

1980 年 1 月 岩手医科大学歯学部歯科薬理学助手

1980 年 4 月 盛岡市医師会付属盛岡準看護学院講師 (嘱託)

1984 年 4 月 盛岡衛生学院講師 (嘱託)

2001 年 8 月 岩手医科大学医学部薬理学実習兼坦講師

2005 年 7 月 青森大学薬学部助手

2006 年 4 月 青森大学薬学部講師

2012 年 4 月 青森大学薬学部准教授

【所属学会】

日本薬理学会、日本東洋医学会、

【教育活動】

【担当科目】

薬理学Ⅲ、薬理学実習、基礎薬学実習、化学療法学、臨床検査学、

薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ

【卒業研究指導】

2008 年度卒業研究：7 名

2009 年度卒業研究：7 名

2011 年度卒業研究：5 名

2012 年度卒業研究：4 名

2013 年度卒業研究：5 名

【ゼミ指導】

薬学部担任制で各学年 4～7 名を指導

【教育指導に関する特記事項】

1. 薬剤師国家試験支援のため、補講を行っている。
2. 毎年度、国家試験出題薬物を調査し、それらの主作用、副作用、類似薬、作用機序などをまとめた冊子 (約 45 頁) を作成し、学生に配布している。

【研究活動】

【研究テーマ】

- (1) HPLC-ECD 法を使用した各種神経伝達物質測定法の開発と応用
- (2) 行動薬理学実験に使用する新規迷路実験装置の開発と応用
- (3) 唾液腺の神経伝達物質に関する研究

【著書、論文、総説】

1. Nakagawasai, O., Onogi, H., Mitazaki, S., Sato, A., Watanabe, K., Saito, H., Murai, S., Nakaya, K., Murakami, M., Takahashi, E., Tan-No, K., and Tadano, T., : Behavioral and neurochemical characterization of mice deficient in the N-type Ca²⁺ channel alpha1B subunit. *Behavioural Brain Research* 208, 224-230, 2010

2. Nijijima, F., Saito, H., Murai, S., Arai, U., Nakagawasai, O., Tan-No, K., Watanabe H., Hiraga, H. and Tadano, T., : Effects of atomoxetine on levels of monoamines and related substances in discrete brain regions in mice intermittently deprived of REM sleep. *Biol. Pharm. Bull.* 33, 617-621, 2010

3. Nijijima-Yaoita, F., Tsuchiya, M., Saito, H., Nagasawa, Y., Murai, S., Arai, Y., Nakagawasai, O., Nemoto, W., Tadano, T., Tan-No, T. : Influence of a long-term powdered diet on the social interaction test and dopaminergic systems in mice. *Neurochem. Int.* 63, 309-315, 2013

[学会発表]

1. 斉藤弘子、佐藤栄作、加藤裕久、村井繁夫 HPLC-ECD を用いた血清カテコールアミン高速測定法-アルミナ抽出およびクロマトグラフ条件の改良、第 79 回日本薬理学会年会、横浜、2006 年 3 月

2. 佐藤毅、穂積壮一、中川西修、吉田文、斉藤弘子、新島富紀枝、丹野幸一、村井繁夫、只野武、嗅球摘出マウスにおけるコリン作動薬投与に誘発される行動変化、第 80 回日本薬理学会総会、名古屋、2007 年 3 月

3. 佐藤毅、中川西修、新島富紀枝、丹野幸一、斉藤弘子、村井繁夫、荒井裕一郎、只野武、「うつ病モデル動物における母性行動の変化：中脳辺縁系におけるドパミン神経系の変化との関連性」、第 81 回日本薬理学会総会、横浜、2008 年 3 月

4. Nijijima, F., Saito, H., Murai, S., Arai, Y., Nakagawasai, O., Tan-No, K. and Tadano, T. : Effect of atomoxetine on the levels of monoamines and their related substances in discrete brain regions of intermittent REM sleep deprived mice. XXVI CINP (Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologium) Congress, Munich, Germany, July, 2008.

5. Satoh, A., Nakagawasai, O., Onogi, H., Nijijima, F., Tan-No, K., Saito, H., Murai, S., Arai, Y. and Tadano, T. : Abnormal maternal behavior induced by olfactory bulbectomy: Relationship to functions of mesolimbic dopaminergic neurons. XXVI CINP (Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologium) Congress, Munich, Germany, July, 2008.

6. 中川西 修、小野木弘志、三反崎 聖、佐藤 敦、渡辺研弥、斉藤弘子、村井繁夫、中谷孝太、望月成美、村上 学、高橋英機、新島富紀枝、丹野孝一、只野 武、N 型カルシウムチャンネル $\alpha 1B$ サブユニット欠損マウスの行動及び神経化学的特徴、第 40 回日本神経精神薬理学会、仙台、2010 年 9 月

7. 八百板富紀枝、土谷昌広、斉藤弘子、村井繁夫、荒井裕一朗、根本互、中川西修、只野武、丹野孝一、マウスにおける食習慣の質的低下による情動行動への影響について、第 63 回日本薬理学会北部会、新潟、2012 年 9 月

8. Yaoita, F., Tsuchiya, M., Saito, H., Nagasawa, Y., Murai, S., Arai, Y., Nakagawasai, O., Nemoto, W., Tadano, T., Tan-No, K. : Influence of a long-term powdered diet on the social interaction test in mice: the role of dopaminergic systems : International Symposium for Neurosciences 2013 ,

仙台, 2013年3月

9. 八百板富紀枝、荒井香、下道麻夏、齊藤貴之、土谷昌広、斉藤弘子、村井繁夫、荒井裕一郎、根本互、中川西修、只野武、丹野孝一、粉末食飼育マウスにおける **Social interaction** の障害について、平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム、仙台、2013年5月

[その他の活動]

[学内各種委員]

ハラスメント防止対策委員会

動物センター運営委員会

学生実習委員会

卒業試験委員会

OSCE 運営委員会

実務実習実施委員会

ワークショップ委員会

氏名 四釜久隆 (SHIKAMA Hisataka)

所属 薬学部薬学科

職名 教授

生年月日 1949 年 9 月 29 日

【履歴】

【学歴】

1973 年 3 月 北海道大学薬学部卒業

1978 年 3 月 北海道大学大学院薬学研究科博士課程修了

【学位】

1978 年 薬学博士(北海道大学)

【職歴】

1978 年 12 月 北海道大学助手 薬学部

1979 年 7 月 米国バンダ・ヘルト大学医学部生理学科、ハワード・ヒュージ医学研究所リサーチアソシエイト

1982 年 4 月 山之内製薬株式会社 中央研究所生化学研究部

1998 年 6 月 同 創薬研究本部薬理研究所長

2003 年 1 月 同 創薬研究本部研究企画部長

2004 年 4 月 同 製品企画部長

2009 年 9 月 アステラス製薬(旧山之内製薬)定年退職

2009 年 10 月 味の素製薬株式会社研究開発企画部

2013 年 10 月 青森大学薬学部薬学科教授

1992 年 8 月 筑波大学助教授基礎医学系(客員)医学研究科担当

2000 年 4 月 筑波大学教授基礎医学系(客員)医学研究科担当

2001 年・2009 年 筑波大学教授(客員)大学院人間総合科学研究科先端応用医学専攻分子情報医

学分野 (連携)担当

2000 年・2004 年 千葉大学講師(非常勤 薬学部)

【所属学会】

日本薬理学会

【教育活動】

【担当科目】

病態生化学Ⅰ、病態生化学Ⅱ、細胞生理学、創薬学概論、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、

【研究活動】

製薬企業で新規薬剤の創薬研究に主に携わってきた経験を基に、この 4 半世紀に起こった新薬創製の仕組みや方法論の変化について概説し、まとめる。

【研究費取得状況】

なし

【学内各種委員】

入試選抜委員会、国試対策委員会、卒業試験委員会

【学外委員】

なし

氏名 嶋田 雄介 (SHIMADA Yuusuke)

所属 薬学部薬学科

職名 教授

生年月日 1950年3月28日

[履歴]

[学歴]

1973年3月 東京薬科大学薬学部製薬学科卒業

[学位]

薬学士

[職歴]

1973年12月 青森県職員採用

1996年4月 青森県環境保健部医務薬務課薬務指導班長(薬務等担当)

2001年4月 青森県健康福祉部健康医療課薬事指導監(薬務等担当)

2008年10月 青森県健康福祉部保健衛生課総括副参事
(新型インフルエンザ対策推進担当)

2010年4月 青森大学薬学部教授(現在に至る)

[教育活動]

[担当科目]

薬事関係法規・制度、キャリアデザインⅠA、キャリアデザインⅠB、薬倫理学、食品衛生学、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、特別実習、分析化学・放射化学実習

【卒業研究】

2011年度 2名、2012年度 2名、2013年度 2名、2014年度 3名、2015年度 2名

[研究活動]

[研究テーマ]

社会において果たすべき薬局、薬剤師等の責任、義務等、及び社会貢献の必要性を理解するために、薬学を取り巻く法律、制度等に関する知識・情報、あるいは地域社会活動について調査・研究する。

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. 薬業関係団体に対する薬事関係法規・事業等の講演
2. 新型インフルエンザ対策に関する講演
3. 社会福祉主事養成講座における公衆衛生概論の講義
4. 県庁出前トークにおける薬物乱用防止運動、献血推進運動に関する講演
5. 大学出前講座における講演(むつ工業高等学校)

[学内各種委員]

国試対策委員会

卒業試験委員会

OSCE 運営委員会

実務実習関連委員会(実務実習事前学習関係)

学術研究会(全学)会計

教務委員会(学部)

[学外各種委員]

保険指導薬剤師(東北厚生局青森事務所)

社会保険診療報酬請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会

青森県登録販売者試験委員会
青森県後発医薬品安心使用促進協議会

氏名 四宮 貴久 (Takahisa Shinomiya)

所属 薬学部

職種 教授

生年月日 1947 年 6 月 28 日

【履 歴】

【学 歴】

北海道大学 薬学部卒

北海道大学 薬学研究科博士課程終了

【学 位】

薬学博士

【職 歴】

三菱化成生命科学研究所研究員

フンボルト財団留学生 (ドイツガンセンター、Heiderberg)

三菱化成肝臓移植プロジェクトリーダー (イギリス ARC Institute, Cambridge)

国立小児病院小児医療研究センター 実験外科研究室長

国立成育医療センター研究所 ラジオアイソトープ施設長

瀋陽薬科大学 生命科学学科 教授

東京理科大学理工学部応用生物科学科 嘱託教授 (常勤)

青森大学薬学部 教授 (現職)

【受 賞】

【所属学会】

薬学会

【教育活動】

【担当科目】

基礎微生物学、病原微生物学、代謝生化学、総合演習 I、総合演習 II、卒業演習

【卒業研究指導】

動物細胞培養液の組成と増殖の関係

培養細胞の固定染色法の検討

【ゼミ指導】

実験結果の検討。発表・講演法、話し方、丁寧語、敬語、人前で話すときの注意点などの指導。

【教育指導に関する特記事項】

アイデアや情報を得て、自分なりに計画を立て、実行するのが目標。その為には、途中経過をまとめ、連絡、相談、確認を行い、次のステップに進む、そのような過程がごく普通のこととして行えるよう指導している。

【研究活動】

【研究テーマ】

抗がん剤及び免疫抑制剤の細胞傷害作用機構の研究

【著書、論文、総説】

Novel tamoxifen derivative Ridaifen-B induces Bcl-2 independent autophagy

without estrogen receptor involvement. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*,
435(4),657–663, 2013

[学会発表]

[その他の活動]

東京電機大学大学院 非常勤講師 生理化学担当

東京理科大学工学部応用生物科学科 特別勤講師 化学療法学担当

[公開講座、講演、セミナー]

[学内各種委員]

学生実習委員会、国際交流委員会

氏名 田元 浩一 (TAMOTO, Koichi)

所属 薬学部薬学科

職種 教授

生年月日 1947年8月24日

[履 歴]

[学 歴]

1970年3月 北海道大学薬学部薬学科卒業

1972年3月 北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了

1973年11月 北海道大学大学院薬学研究科博士課程中退

[学 位]

1976年9月 薬学博士 北海道大学

[職 歴]

1973年12月 北海道大学薬学部 教務職員

1978年7月 北海道大学薬学部 助手

1985年10月 東日本学園大学(現北海道医療大学) 薬学部 助教授

1991年4月 札幌医療福祉専門学校看護学科兼任(1994年3月まで)

2001年3月 民間病院治験審査委員会委員(2005年8月まで)

2005年9月 徳島文理大学香川薬学部 教授

2010年4月 徳島文理大学香川薬学部薬学科長

2013年4月 青森大学薬学部 教授(現在に至る)

[受 賞]

[所属学会]

日本薬学会、日本生化学会

[教育活動]

[担当科目]

衛生化学 II、免疫学、病態生化学 II、微生物・衛生化学実習、薬学総合演習 I、
薬学総合演習 II、特別実習

[卒業研究指導]

2013年度 4名

2014年度 4名

[ゼミ指導]

薬学部担任制で各学年 2~4 名程度を指導している。

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験支援のための補講を行っている。
2. 共用試験 (CBT、OSCE) 支援のための補講を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 関節リウマチの病態形成のしくみと治療に役立つ薬物の作用機構
2. リゾリン脂質が関節リウマチ滑膜細胞の炎症応答を調節するしくみ
3. 好塩基球における可逆的な巨大顆粒の形成がアレルギー反応を調節するしくみ
4. 生活習慣病の予防に役立つ抗炎症作用や抗腫瘍作用を有する食品成分の探索と作用機構の解析

[著書、論文、総説]

Yamada T., Sato K., Komachi M., Malchinkhuu E., Tobo M., Kimura T., Kuwabara

A., Yanagita Y., Ikeya T., Tanahashi Y., Ogawa T., Ohwada S., Morishita Y., Ohta H., Im DS., Tamoto K., Tomura H., Okajima F.: Lysophosphatidic acid (LPA) in malignant ascites stimulates motility of human pancreatic cancer cells through LPA1. *J. Biol. Chem.*, 279, 6595-6605 (2004)

Nochi H., Tanaka N., Tamoto K.: Anti-inflammatory and analgesic effects of high-molecular-weight hyaluronic acids: Action mechanism by which interleukin-1-induced cyclooxygenase-2 expression in articular synovial cells is controlled. *Clin. Rheumatol.*, 16, 383-394 (2004) (in Japanese)

Nochi H., Shinomiya T., Tamoto K.: Characterization of hyaluronan-binding proteins on guinea pig polymorphonuclear leukocytes: Possible involvement of complement receptor

type 3 (CR3, CD11b/CD18) in the hyaluronan-leukocyte interaction. *J. Biochem.*, 139, 59-70 (2006)

Nochi H., Tomura H., Tobo M., Tanaka N., Sato K., Shinozaki T., Kobayashi T., Takagishi K., Ohta H., Okajima F., Tamoto K.: Stimulatory role of lysophosphatidic acid in cyclooxygenase-2 induction by synovial fluid of patients with rheumatoid arthritis in fibroblast-like synovial cells. *J. Immunol.*, 181, 5111-5119 (2008)

Liu IP., Komachi M., Tomura H., Mogi C., Damirin A., Tobo M., Takano M., Nochi H., Tamoto K., Sato K., Okajima F.: Ovarian cancer G-protein-coupled receptor 1-dependent and -independent vascular actions to acidic pH in human aortic smooth muscle cells. *Am. J. Physiol.*, 299: H731-H742 (2010)

[学会発表]

田元浩一、野地裕美：高分子量ヒアルロン酸の抗炎症作用機構、第28回日本炎症再生医学会シンポジウム「炎症・再生におけるECMの役割」2007年8月（東京）

栗田拓朗、随麗、石橋賢樹、浜本英利、大須賀健士、大平文和、野地裕美、田元浩一、牧野悠治：剣山形マイクロニードルによる経皮抗OVA免疫誘導（第1報）、日本薬学会第130年会 2010年3月（岡山）

桐山賀充、野地裕美、田元浩一：Increased expression of GabarapL1 mRNA in RBL-2H3 cells. 第34回日本分子生物学会年会 2011年12月（横浜）

桐山賀充、野地裕美、田元浩一：マイトファジーにおけるNixおよびGABARAPL1のオートリソソームへの局在とmRNAの誘導発現、日本薬学会第132年会 2012年3月（札幌）

Shirota O., Nochi H., Tamoto K., Sekita S., Sai M, Ito T.: Human osteosarcoma proliferation inhibitors from royal jelly. 012ICNPR (2012 International Congress on Natural Products Research) 2012年7月（New York）

扶川晴香、宮武未来、春木結衣、田中信行、岡島史和、田元浩一、野地裕美：関節リウマチ滑膜細胞の細胞外pHの酸性化によるCOX-2発現誘導機構の解析、日本薬学会第135年会 2015年3月（神戸）

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

[学内各種委員]

教務委員、卒業試験委員

氏名 中田 和一 (NAKATA Waichi)

所属 薬学部薬学科

職名 教授

生年月日 1955年12月10日

[履歴]

[学歴]

1980年3月 山形大学工学部電子工学科卒業

1982年3月 山形大学大学院工学研究科電子工学専攻修了

[学位]

工学博士

[職歴]

1982年4月 新日本無線株式会社

1992年4月 青森大学工学部電子情報工学科助手

1996年4月 青森大学工学部電子情報工学科講師

2004年4月 青森大学経営学部助教授

2007年4月 青森大学経営学部准教授

2009年4月 青森大学経営学部教授

2013年4月 青森大学薬学部教授

[所属学会]

電子情報通信学会、日本雪氷学会、日本工学教育協会

[教育活動]

[担当科目]

情報システム論Ⅰ、情報活用論演習ⅠおよびⅡ、物理入門、薬学のための物理、薬学のための数学ⅠおよびⅡ、薬学総合演習Ⅱ

[教育育指導に関する特記事項]

IT パスポート国家試験支援のための講習会を夏期と冬期、年2回行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) ILS (計器着陸装置) に関する雪氷電波障害メカニズムの解析と対策

(2) 青森県における ITS (高度道路情報システム) 関連事業の展開

[著書、論文、総説]

1, 横山尚志、田嶋裕久、中田和一: 「ILS GP の近傍モニタによる遠方特性推定」、電子情報通信学会論文誌 B、Vol.J94-B No.1、P65-67、2011年、1月

2, 田嶋裕久、横山尚志、中田和一: 「電波特性の監視に関する研究 (ILS GP の近傍モニタに関する改善)」平成 20~22 年度研究報告書、平成 22 年 3 月 31 日、電子航法研究所 p 21-32、p 36-42

3, 葛西章史、中田和一: 「積雪寒冷地における防災 ITS の取り組み」、交通工学、平成 25 年

1 月号、Vol48, No.1, 丸善出版, p32-35

[学会発表]

1, 横山、朝倉、田嶋、中田: 「融雪変動を最小化する GP モニタ特性」、電子航法研究所、2006 年 6 月

- 2, 横山、朝倉、田嶋、中田：「ILS グライドパス反射面の積雪によるパス特性の変化」、電子航法研究所、2007年6月
- 3, 横山、朝倉、田嶋、中田：「青森空港の積雪による LLZ のコース偏位」、電子航法研究所、2008年6月
- 4, 田嶋、横山、中田：「ILS GP の近傍モニタアンテナによる遠方特性推定法の検討」電子情報通信学会総合大会、2009年3月、愛媛大学
- 5, 田嶋、横山、中田：「ILS GP の近傍モニタアンテナ最適化による遠方特性推定」電子情報通信学会総合大会、2010年3月、東北大学
- 6, 横山、田嶋、中田：「ILS LOC 反射面の積雪によるコース偏位」電子情報通信学会総合大会、2010年3月、東北大学
- 7, 中田、横山、田嶋：「UHF 帯複素比誘電率測定用矩形同軸キャビティセンサー」電気関係学会東北支部連合大会、2010年8月、八戸工業大学
- 8, A.Kasai, W.Nakata, H.Makino, H.Takayuki: "EFFORTS FOR DISASTER PREVENTION ITS IN SNOWY COLD REGIONS", 20th ITS WORLD CONGRESS TOKYO 2013, TOKYO INTERNATIONAL FORUM, Technical/Scientific Sessions, 17 October, 2013
- 9, 田嶋、二つ森、中田：「ILS LOC の積雪障害の遮蔽フェンスによる改善法」電子情報通信学会総合大会、2014年3月、新潟大学

[研究費の取得状況]

- 1, 「電波特性の監視に関する研究」、研究補助金 124 万円、電子航法研究所、2008 年
- 2, 「積雪空港におけるローカライザーアンテナの着雪・積雪問題に関する研究」科学研究補助金 230 万円、文部科学省、2008～2010 年
- 3, 「反射波遮蔽フェンスによるローカライザーの積雪障害の抑制に関する研究」科学研究補助金 260 万円、文部科学省、2013～2015 年

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

- 1, 「暮らしの中の電磁波」、(社)青森県鍼灸マッサージ師会研修会、2009年11月

[学内各種委員]

全学学生委員 (委員長)、ハラスメント防止対策委員、基礎学力向上委員

[学外各種委員]

- 1, あおもり ITS 推進研究会会長 2005 年 7 月～
- 2, 交通あおもり. COM ワーキンググループ委員 (青森県企画政策部) 2007 年度
- 3, あおもり市民百人委員会 2009 年 9 月～2010 年 9 月
- 4, 電子航法研究所客員研究員 2008 年 4 月～2010 年 3 月
- 5, 青森市総合都市交通対策協議会分科会委員 2010 年 4 月～

[その他]

- 1, 特許登録第 3956024 号：「ILS のグライドパス装置の GP パス予測方法」
- 2, 特許登録第 3988

氏名 藤田 均 (FUJITA Hitoshi)

所属 薬学部薬学科

職名 教授

生年月日 1947 年 9 月 29 日

[履歴]

[学歴]

1971 年 6 月 東京大学農学部林学科卒業

[職歴]

1971 年 6 月 厚生省大臣官房国立公園部

1971 年 7 月 環境庁自然保護局企画調整課

1976 年 4 月 国土庁大都市圏整備局計画課係長

1979 年 4 月 環境庁自然保護局保護管理課係長

1980 年 11 月 同 国立公害研究所研究企画官

1984 年 4 月 同 企画調整局研究調整課調整専門官

1986 年 4 月 同 自然保護局 霧島屋久国立公園管理官

1989 年 4 月 同 大山隠岐国立公園管理事務所保護科長

1992 年 7 月 同 沖縄地区国立公園・野生生物事務所長

1995 年 4 月 同 東北地区国立公園・野生生物事務所長

1997 年 7 月 同 東北北海道地区国立公園・野生生物事務所長

1998 年 4 月 同 北関東地区国立公園・野生生物事務所長

1999 年 4 月 青森大学大学院環境科学研究科環境教育学専攻 主任教授

2003 年 4 月 同 研究科長 教授

2013 年 4 月 同 薬学部 教授

[所属学会]

日本造園学会、日本環境教育学会

[教育活動]

[担当科目]

環境論

基礎スタンダード[社会と環境]

基礎スタンダード[学問のすすめ]

基礎スタンダード[文章の理解と表現]

基礎スタンダード[シーズンスポーツA]

基礎スタンダード[シーズンスポーツB]

[生涯学習教育]

1 青森大学オープンカレッジ

2013 年度 青森大学オープンカレッジ副所長として 9 事業に参画

2014 年度 青森大学オープンカレッジ所長として 9 事業に参画

2 2003 年度より青森大学自然学校を運営し、一般社会人宛にインタープリターの養成を行っている。青森大学大学院教授時、ゼミ生にはその手伝いを通じてインタープリテーション指導技術を高めていた。なお、本校は大学院として自然学校を持った第1号である。

[研究活動]

[研究テーマ]

1 野生動植物の保護管理

2 環境教育学全般

3 環境科学全般

[著書、論文、解説]

1. 藤田 均：論文・理科年表に見る日本の温暖化 青森大学研究紀要 3 1 - 3 号 2009、2 月 335-344
2. 藤田 均：論文・自然公園内における野生動物の保護管理—下北のサル保護管理を事例として 青森大学研究紀要 3 2 - 3 号 2010、2 月 121-140
3. 藤田 均：論文・自然観察の切り口—新しい自然観察指導者教育法— 青森大学研究紀要 3 5 - 3 号 2013、2 月 129-164
4. 藤田 均、瀬川紀雄、青木陽二 論文・俳句の持つ東日本大震災風景の描写力の検討研究 青森大学研究紀要 3 7 - 2 号 2014、11 月 53-63

[学会発表]

1. 藤田 均：講演・国立公園の管理という視点—増え過ぎた野生動物の管理問題 日本造園学会東北支部青森大会、2008 年 8 月、青森大学
2. 藤田 均：公開シンポジウムコーディネーター・国立公園利用に当たっての安全性の確保 日本造園学会東北支部青森大会、2008 年 8 月、青森大学
3. 藤田 均：日本環境教育学会第 2 2 回青森大会、大会実行委員長として、152 件の口頭発表、34 件のポスター発表、川口淳一郎氏（宇宙航空研究開発機構）の「津軽平野から小惑星イトカワへ」の講演、木村秋則氏、鬼頭秀一教授、藤田による「奇跡のリンゴ - 土から学んだ生きる力 -」の対談等を実施、2011 年 7 月、青森大学
4. 日本造園学会東北支部青森大会開催副委員長、ポスター発表 藤田 均、瀬川紀雄、青木陽二 論文・俳句の持つ東日本大震災風景の描写力の検討研究、2014 年 10 月、弘前市文化センター

[研究費の取得状況]

1. 藤田 均ら共同：自然学校指導者（初級）養成事業、500 千円、国土緑化推進機構（緑と水の森林基金）、2006 年
2. 藤田 均ら共同：中国・内モンゴル自治区シリンホト市における草原保護プロジェクト及び環境教育の推進、2,000 千円、公益信託日本経団連自然保護基金、2007 年
3. 藤田 均ら青森大学自然学校共同：官民学連携による小学生 1 週間の自然体験活動プログラム開発、2,466 千円、文部科学省、2008 年
4. 藤田 均ら青森大学大学院共同：ライフサイクルアセスメントを通じた総合的環境教育システムの開発、2,000 千円×2 年、文部科学省私学助成金、2008-2009 年（2010 年度まで継続）

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. 公開セミナー講演・白神山地解説活動連絡協議会主催：知床・白神・屋久島をガイドする—保全、保護の現況から地域観光を考える—基調講演『自然学校で行っているインタープリテーション』、弘前市総合学習センター、2008、3 月
2. 出張講義・日本の温暖化が植生に及ぼす影響 三沢市立中央公民館、2008、7 月
3. 出張講義・日本の温暖化が植生に及ぼす影響 むつ市中央公民館、2008、7 月
4. 公募イベント・青森県小学生対象の体験活動—青森県教育委員会、国土交通省主催『まべちがわ探検川下り』をあとより体験活動推進会議（会長藤田）として

行う。2008、8月

5. 出張講義・理科年表に見る日本の温暖化 青森大学事務職員研修会、2008、8月

6. 出張講演・環境省東北地方環境事務所主催一パークボランティア研修会講演：公園利用者への適切な自然解説方法について、八幡平ビジターセンター周辺、2008、8月

7. 出張講義・白神山地ブナの森 青森山田高校修養会、2008、9月

・公開フォーラム・青森県主催“体験活動実践フォーラム”で基調講演：自然体験上の刃物の効用、パネルディスカッション“充実した体験活動の実践事例”でコーディネーターを勤める、青森市アピオ青森イベントホール、2009、1月

8. 公開シンポジウム・(財)日立環境財団主催、環境省、文部科学省、青森県、青森県教育委員会、青森市、日本経団連自然保護協議会、日本環境教育学会、日本環境教育フォーラム後援、青森大学協力による“2009年みんなが主役の環境教育シンポジウム青森一循環型社会”でコーディネーターを勤める、青森市アウガ男女共同参画プラザ(カダール)、2009、4月

9. 出張講義・日本の温暖化が植生に及ぼす影響 青森大学オープンカレッジ 2009、5月

10. 公募イベント・青森県小学生対象の体験活動一青森県教育委員会主催：陸奥湾ホタテ養殖体験として、平内町土屋漁港周辺でホタテ養殖体験、磯の観察及び企業による出前授業…東芝による消えるインクでの紙の再生等、あおもり体験活動推進会議(会長藤田)として行う。2009、8月

11. 公募イベント・青森県小学生対象の体験活動一青森県教育委員会主催：津軽里山食農体験としてのリンゴ狩り、稲刈り体験及び企業による出前授業…弘果・弘前中央青果見学会、東北電力による発電実験等、あおもり体験活動推進会議(会長藤田)として行う。2009、10月

12. 公開基礎講座・文部科学省、環境省主催、青森県教育委員会協力“21年度東北6県環境教育リーダー研修基礎講座”青森大会で、1日目講演：子どもも分かる自然環境教育。2日目観察会：気づきから見つける科学的真実で講師を務める。2009、10月

[学内各種委員]

1 図書委員

[学外各種委員]

1 東北森林管理局、森林計画の策定等に係わる検討会委員、2006～

2 青森県公共事業再評価等審議委員、2009～

3 青森県環境審議会委員、青森県、2006～2012(2009～12 会長)

4 青森県環境影響評価審査会委員、青森県、2006～2012(2009～12 会長)

5 三沢市仏沼保全活用審議会委員、三沢市、2006～

6 下北半島ニホンザル保護管理対策協議会委員(会長)：特定鳥獣保護管理計画の検討、青森県、2007～

7 環境保全施策推進協議会委員(会長)：青森県環境計画の策定、青森県、2009～2012

氏名 水野 憲一 (MIZUNO, Norikazu)

所属 薬学部薬学科

職種 教授

生年月日 1963 年 10 月 8 日

[履 歴]

[学 歴]

1986 年 3 月 北海道大学薬学部製薬化学科 卒業

1991 年 3 月 北海道大学大学院薬学研究科博士課程 修了

[学 位]

1991 年 3 月薬学博士 北海道大学

[職 歴]

1989 年 4 月 日本学術振興会特別研究員

1992 年 1 月 北海道大学薬学部教務職員

1992 年 10 月 東京工業大学生命理工学部シェリングプラウ寄附講座教員

2000 年 4 月 東京大学医科学研究所教務補佐員

2001 年 4 月 東京大学医科学研究所アムジェン寄付研究部門教員

2002 年 9 月 奈良先端科学技術大学院大学 助手

2007 年 4 月 奈良先端科学技術大学院大学 助教

2014 年 4 月 青森大学薬学部 教授

[所属学会]

日本分子生物学会、日本生化学会、日本細胞生物学会、北米神経科学会

[教育活動]

[担当科目]

代謝生化学、機能形態学 IV、基礎薬学実習、分析化学実習、薬学総合演習 I、薬学総合演習 II

[卒業研究指導]

2015 年度 5 名職種 教授

[研究活動]

[研究テーマ]

G タンパク質共役受容体を介したシグナル伝達系の機能解析

[研究業績]

[原著論文]

1. Matsuoka, I., Mizuno, N., and Kurihara, K. Cholinergic differentiation of clonal rat pheochromocytoma cells (PC12) induced by retinoic acid: increase of choline acetyltransferase activity and decrease of tyrosine hydroxylase activity. *Brain Res.* 502, 53-60 (1989)

2. Mizuno, N., Matsuoka, I., and Kurihara, K. Possible involvements of intracellular Ca^{2+} and Ca^{2+} -dependent protein phosphorylation in cholinergic differentiation of clonal rat pheochromocytoma cells (PC12) induced by glioma-conditioned medium and retinoic acid. *Dev Brain Res.* 50, 1-10 (1989)

3. Okuse, K., Mizuno, N., Matsuoka, I., and Kurihara, K. Induction of cholinergic and adrenergic differentiation in N-18 cells by differentiation agents and DNA

demethylating

agents. *Brain Res.* 626, 225-233 (1993)

4. Mitamura, S., Ikawa H., Mizuno, N., Kaziro, Y., and Itoh, H. Cytosolic nuclease activated by casapse-3 and inhibited by DFF-45. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 243,

480-484, (1998)

5. Miyamoto Y., Yamauchi J., Mizuno N., Itoh H. The adaptor protein Nck1 mediates endothelin A receptor-regulated cell migration through the Cdc42-dependent c-Jun N-terminal kinase pathway. *J. Biol. Chem.* 279, 34336-34342 (2004)

6. Mizuno N., Kokubu H., Sato M., Nishimura A., Yamauchi J., Kurose H., Itoh H. G protein-coupled receptor signaling through Gq and JNK negatively regulates neural progenitor cell migration. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA.* 102, 12365-12370 (2005)

7. Nishimura A., Okamoto M., Sugawara, Y., Mizuno N., Yamauchi J., Itoh H. Ric-8A potentiates Gq-mediated signal transduction by acting downstream of G protein-coupled

receptor in intact cells. *Genes Cells* 11, 487-498 (2006)

8. Sugawara Y., Nishii H., Takahashi T., Yamauchi J., Mizuno N., Tago K., Itoh H. The lipid

raft proteins flotillins/reggies interact with G alpha q and are involved in Gq-mediated p38

mitogen-activated protein kinase activation through tyrosine kinase. *Cell. Signal.* 19, 1301-1308 (2007)

9. Urano, D., Nakata A., Mizuno N., Tago K., Itoh H. Domain-domain interaction of P-Rex1

is essential for the activation and inhibition by G protein betagamma subunits and PKA.

Cell. Signal. 20, 1545-1554 (2008)

10. Iguchi T., Sakata K., Yoshizaki K., Tago K., Mizuno N., Itoh H. Orphan G protein-coupled

receptor GPR56 regulates neural progenitor cell migration via a G alpha 12/13 and Rho pathway. *J. Biol. Chem.* 283, 14469-14478 (2008)

11. Nakata A., Urano D., Fujii-Kuriyama Y., Mizuno N., Tago K., Itoh H. G-protein signalling

negatively regulates the stability of aryl hydrocarbon receptor. *EMBO Rep.* 10, 622-628 (2009)

12. Nagai Y., Nishimura A., Tago K., Mizuno N., Itoh H. Ric-8B stabilizes the alpha subunit of

stimulatory G protein by inhibiting its ubiquitination. *J. Biol. Chem.* 285, 11114-11120 (2010)

13. Tago K., Funakoshi-Tago M., Sakinawa M., Mizuno N., Itoh H. KappaB-Ras is a nuclear-cytoplasmic small GTPase that inhibits NF-kappaB activation through the suppression of transcriptional activation of p65/RelA. *J. Biol. Chem.* 285, 30622-30633 (2010)

14. Nishimura A., Kitano K., Takasaki J., Taniguchi M., Mizuno N., Tago K., Hakoshima T.,

Itoh H. Structural basis for the specific inhibition of heterotrimeric Gq protein by a small

molecule. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA.* 107, 13666-13671 (2010)

15. Toriyama M., Mizuno N., Fukami T., Iguchi T., Toriyama M., Tago K. Itoh H. Phosphorylation of Doublecortin by Protein Kinase A Orchestrates Microtubule and Actin

Dynamics to Promote Neuronal Progenitor Cell Migration *J. Biol. Chem.* 287, 12691-12702 (2012)

16. Saito Y., Kaneda K., Suekane A., Ichihara E., Nakahata S., Yamakawa N., Nagai K.,

Mizuno N., Kogawa K., Miura I., Itoh H., Morishita K. Maintenance of the hematopoietic

stem cell pool in bone marrow niches by EVI1-regulated GPR56. *Leukemia.* 27, 1637-1649 (2013)

17. Jenie R.I., Nishimura M., Fujino M., Nakaya M., Mizuno N., Tago K., Kurose H., Itoh H.

Increased ubiquitination and the crosstalk of G protein signaling in cardiac myocytes: involvement of Ric-8B in Gs suppression by Gq signal. *Genes Cells.* 18, 1095-1106 (2013)

18. Ohta S, Sakaguchi S, Kobayashi Y, Mizuno N, Tago K, Itoh H. Agonistic Antibodies Reveal the Function of GPR56 in Human Glioma U87-MG Cells. *Biol Pharm Bull.* 38, 594-600 (2015)

[総説]

1. 水野憲一, 伊東 広 Caspase ファミリーとアポトーシス 医学のあゆみ 187, 318-323(1998)

2. 水野憲一, 伊東 広 Caspase ファミリーとアポトーシス 臨床免疫 32, 426-434(1999)

3. 水野憲一, 伊東 広 カスパーゼとアポトーシスにおける核断片化 血液・腫瘍科 40,346-353 (2000)

4. 水野憲一, 横田 崇 神経幹細胞の自己再生メカニズム *Clinical Neuroscience* 20, 38-40(2002)

5. 水野憲一, 横田 崇 ES 細胞の神経分化はどこまで解明されたか 総合臨牀 51,42-46 (2002)

6. 水野憲一, 横田 崇 ES 細胞から神経分化へ 再生医学再生医療 (現代化学増刊 41),59-62 (2002)

7. Mizuno N. Itoh H. Functions and regulatory mechanisms of Gq-signaling pathways. *Neurosignals.*17, 42-54 (2009)

[著書]

1. 松岡一郎, 水野憲一, 栗原堅三 コリン作動性神経分化因子の特性と作用機作 脳の神経栄養因子と先天性代謝異常; 平凡社、141-157. (1989)

2. Mizuno N., and Itoh H. Signal transduction mediated through adhesion GPCRs. *Adv. Exp.Med. Biol.* 706, 157-166. (2010)

[学会発表]

1. 永井裕介、水野憲一、多胡憲治、伊東 広 三量体 G タンパク質 $G_{\alpha s}$ のユビキチン化は Ric-8B との結合により抑制される第 82 回日本生化学会大会 2009 年 10 月 24 日 兵庫県神戸市

2. 吉田真奈美、水野憲一、伊東広 G タンパク質シグナルによる doublecortin のリン酸化と細胞遊走の解析 第 82 回日本生化学会大会 2009 年 10 月 22 日 兵庫県神戸市
3. Yusuke Nagai, Norikazu Mizuno, Kenji Tago, Hiroshi Itoh, Ric-8B accelerates Gs signaling through the stabilization of the α subunit of stimulatory G protein The American Society for Cell Biology 49th annual meeting 2009 年 12 月 7 日 San Diego, CA, USA
4. 鳥山真奈美、水野憲一、多胡憲治、伊東 広 Doublecortin のリン酸化を介した Gs-PKA シグナルによる神経前駆細胞の遊走促進 第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2010) 2010 年 12 月 10 日兵庫県神戸市
5. 水野憲一、伊東 広 大脳皮質形成における神経前駆細胞移動の G 蛋白質シグナルによる多重制御機構 第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2010) 2010 年 12 月 7,10 日 兵庫県神戸市
6. Manami Toriyama, Norikazu Mizuno, Kenji Tago, Hiroshi Itoh Phosphorylation of doublecortin by G protein-PKA signaling regulates neuronal progenitor cell migration American Society for Neurochemistry 42nd Annual Meeting 2011 年 3 月 20,21 日 St. Louis, Missouri USA
7. Norikazu Mizuno, Manami Toriyama, Hiroshi Itoh Multi-regulation of neuronal progenitor migration by G protein signaling American Society for Neurochemistry 42nd Annual Meeting 2011 年 3 月 22,23 日 St. Louis, Missouri USA
8. 鳥山真奈美 Gs-PKA シグナルによる微小管結合タンパク質 doublecortin の新規機能の獲得第 58 回日本生化学会近畿支部例会 2011 年 5 月 21 日大阪守口市
9. 鳥山真奈美、猪口徳一、深見岳史、多胡憲治、水野憲一、伊東広 微小管結合タンパク質 doublecortin の PKA によるリン酸化を介した新規アクチン骨格制御 第 84 回日本生化学会 2011 年 9 月 24 日京都府京都市
10. 多胡憲治、多胡めぐみ、Chiocca Susanna, 水野憲一、伊東広 G タンパク質シグナルにより制御される SUMO 化とその分子機構の解析 第 84 回日本生化学会 2011 年 9 月 24 日京都府京都市
11. Shigeyuki Ota, Norikazu Mizuno, Hiroshi Itoh. Glycosylation of GPR56 extracellular domain affects on the signaling and the GPS cleavage 第 34 回日本分子生物学会 2011 年 12 月 15 日、16 日 神奈川県横浜市
12. Kenji Tago, Megumi Funakoshi-Tago, Yoichiro Fukao, Naoyuki Sugiyama, Masaru Tomita, Norikazu Mizuno, Hiroshi Itoh Functional involvement of an atypical nuclear-cytoplasmic small GTPase K-Ras in oncogenic signaling pathway 第 34 回日本分子生物学会 2011 年 12 月 16 日神奈川県横浜市
13. Riris Jenie, Motoki nishimura Kenji Tago, Norikazu Mizuno, Hiroshi Itoh Involvement of Ric-8 in the $G\alpha_q$ -induced suppression of Gs signaling 第 34 回日本分子生物学会 2011 年 12 月 16 日神奈川県横浜市
14. Naoto Sasai, Jyunkyung Kang, Shigeyuki Ohta, Kenji Tago, Norikazu Mizuno, Hiroshi Itoh. N-terminal fragment of Latrophilin1 negatively regulates the adhesion GPCR-induced signals 第 34 回日本分子生物学会 2011 年 12 月 16 日神奈川県横浜市
15. Kenta Takami, Takuma Kanasaki, Akiyuki Nishimura, Yusuke Nagai, Kenji Tago, Norikazu Mizuno, Naoyuki Fuse, Hiroshi Itoh. Analysis of non-receptor type of G protein regulator Ric-8 involved in Drosophila gastrulation 第 34 回日本分子生物学会 2011 年 12 月 16 日神奈川県横浜市
16. Manami Toriyama, Norikazu Mizuno, Tokuichi Iguchi, Michinori Toriyama,

Takashi Fukami, Kenji Tago, Hiroshi Itoh Doublecortin orchestrates microtubule and actin dynamics to promote neuronal progenitor cell migration in a manner dependent on phosphorylation by PKA 2011 Annual meeting, ASCB 2011 年 12 月 4 日 DENVER, U.S.A.

17. 鯉森貴行、小林哲夫、水野憲一、伊東広 $G\alpha s$ ユビキチン修飾を制御する分子機構の解析 第 36 回日本分子生物学会 2013 年 12 月 3-5 日 兵庫県神戸市

18. 根岩直希、水野憲一、小林哲夫、伊藤友里、伊東広 LGR5 の発現とシグナル伝達の解析 第 36 回日本分子生物学会 2013 年 12 月 3-5 日 兵庫県神戸市

19. 野島悠佑、水野憲一、伊東広 神経細胞の分化に伴う GPR56 の発現パターンの変化 第 36 回日本分子生物学会 2013 年 12 月 3-5 日 兵庫県神戸市

20. 水野憲一, Riris Istighfari Jenie, 仲矢道雄、多胡憲治、黒瀬等、伊東広. 心筋細胞での Gq シグナルによる Gs 抑制機構に対する Ric-8B の関与 第 86 回日本生化学会年会 2013 年 9 月 11-14 日 神奈川県横浜市

21. 水野憲一、太田茂之、小林祐希、坂口さやか、伊東広 機能抗体を用いた癌細胞における GPR56 の機能解析 Functional analysis of GPR56 in tumor cells using the monoclonal antibodies 第 66 回日本細胞生物学会大会 2014 年 6 月 奈良県奈良市

[研究費の取得状況]

科学研究費補助金 基盤研究 (C) (代表) 平成 18 年度～平成 19 年度

「大脳皮質形成における G タンパク質シグナル」

科学研究費補助金 特定領域研究 (代表) 平成 19 年度～平成 20 年度

「新規活性調節因子による三量体 G 蛋白質制御機構の構造学的解析」

科学研究費補助金 基盤研究 (C) (代表) 平成 21 年度～平成 23 年度

「大脳皮質形成における G タンパク質共役受容体シグナルの機能抗体を用いた解析」

科学研究費補助金 基盤研究 (C) (代表) 平成 24 年度～平成 26 年度

「大脳皮質形成における多様な G タンパク質シグナル制御機構の解析」

[学内各種委員]

CBT 運営委員会 (委員長)、予算委員会、入試選抜委員会、教務委員会 (副委員長)、国試対策委員会、共通機器運営委員会、将来計画委員会 (委員長)、薬学教育評価機構対策委員会、日本高等教育評価機構対策委員会

氏名 三浦 裕也 (MIURA Hiroya)
所属 薬学部薬学科
職種 教授
生年月日 1960年8月10日

[履 歴]

[学 歴]

1985年3月 東北大学薬学部薬学科卒業
1990年3月 東北大学薬学部薬学研究科博士課程後期修了

[学 位]

薬学博士

[職 歴]

1990年4月 山之内製薬株式会社開発薬理研究所研究員
2005年4月 アステラス製薬株式会社 創薬代謝第二研究研究室長
2008年3月 アステラス製薬株式会社 退職
2009年10月 日本赤十字社 血漿分画センター 技術開発部長
2015年3月 日本血液製剤機構 (旧日赤分画センター) 退職
2015年4月 青森大学・薬学部 教授

[所属学会]

日本薬学会、日本分析化学会

[教育活動]

[担当科目]

生物薬剤学、薬物動態学、薬剤学実習

[教育指導に関する特記事項]

投与された医薬品が的確に薬効発現するためのメカニズムを薬剤学観点から理解できるよう重点的に指導する

[研究活動]

[研究テーマ]

- ・ 医薬品のバイオアベイラビリティに影響を与える因子の解明
- ・ 代謝に影響を与える人種間差の検討
- ・ 医薬品開発・製造における効率化とリスクマネジメントの検討
等

氏 名 益見厚子 (Masumi Atsuko)

所 属 青森大学薬学部

職 種 教授

生年月日 1958年9月9日

[履 歴]

[学 歴]

1981年 富山医科薬科大学薬学部卒業

1983年 富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士前期課程修了

1990年 東京医科歯科大学大学院医学研究科博士課程修了

[学 位]

1983年 薬学修士

1990年 医学博士

[職 歴]

1983-1986 富山医科薬科大学薬学部文部技官

1990-1992 国立予防衛生研究所化学部ヒューマンサイエンス振興財団流動研究員

1992-1998 国立予防衛生研究所、安全性研究部研究員

1996-1998 米国国立保健衛生研究所 visiting Fellow

1998-2015 国立感染症研究所、血液・安全性研究部主任研究官

[受 賞]

2004年 日本インターフェロン・サイトカイン学会奨励賞 (学会会場：青森県三沢市)

[所属学会]

日本薬学会、日本生化学会、日本分子生物学会、日本癌学会、

日本炎症・再生医療学会、ASBMB, ISICR

[教育活動]

[担当科目]

薬理学、臨床薬理学

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

[教育指導に関する特記事項]

[研究活動]

[研究テーマ]

動物培養細胞を用いたサイトカインシグナルと転写調節

[著書、論文、総説]

原著論文

1. Fukazawa H and Masumi A. The conserved 12-amino acid stretch in the inter-bromodomain region of BET family proteins functions as a nuclear localization signal. *Biol Pharm Bull.* 35, 2064-2068 (2012).
2. Madoka Kuramitsu, Aiko Sato-Otsubo, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi, Tsutomu Toki, Kiminori Terui, Wang RuNan, Hitoshi Kanno, Shouichi Ohga, Akira Ohara, Seiji Kojima, Toshiyuki Kitoh, Kumiko Goi, Kazuko Kudo, Tadashi Matsubayashi, Nobuo Mizue, Michio Ozeki, Atsuko Masumi, Haruka Momose, Kazuya Takizawa, Takuo Mizukami, Kazunari Yamaguchi, Seishi Ogawa, Etsuro Ito, and Isao Hamaguchi. Extensive gene deletions in Japanese patients with Diamond–Blackfan anemia. *Blood*, 119, 2376-2384 (2012).
3. Masumi A. Histone acetyltransferases as regulators of nonhistone proteins: The Role of Interferon Regulatory factor acetylation on gene transcription. *J. Biomed. Biotech.* Review article, 2011: 640610 (2011).
4. Masumi A. The role for Interferon regulatory factor-2 on hematopoietic stem cells in an inflammation state. *Japanese Society of Inflammation and Regeneration.* Mini-review, 30, 531-535 (2010).
5. Ito M., Masumi A., Mochida K. Kukihara H., Moriishi K., Matsuura Y., Yamaguchi K. Mizuochi T.* Peripheral B cells may serve as a reservoir for persistent hepatitis C virus infection. *J. Innate Immunity*, 2, 607-617 (2010).
6. Fumiaki Uchiumi, Kayo Enokida, Takuma Shiraishia, Atsuko Masumi, and Sei-ichi Tanuma. Characterization of the promoter region of the human IGHMBP2 (Smbp-2) gene and its response to TPA in HL-60 cells, *Gene*, 463, 8-17 (2010).
7. Masumi, A., Ito, M., Mochida K., Hamaguchi I., Mizukami T., Momose H., Kuramitsu M., Tsuruhara M., Kato A., Yamaguchi K. Enhanced RIG-I is mediated by interferon regulatory factor-2 in peripheral blood B cell from HCV-infected patients. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 391, 1623-1628 (2010).
8. Masumi, A*, Hamaguchi, I., Kuramitsu M., Mizukami T., Takizawa K., Momose H., Naito S., Yamaguchi K. Interferon Regulatory factor-2 induces mouse hematopoietic cell differentiation in mouse hematopoietic stem cells. *FEBS Lett.* 583, 3493-3500 (2009).

総説

1. 内藤幹彦、益見厚子、臨床応用をめざした薬学の基礎研究、*薬学雑誌* Vol.133, No. 12, 1361-1362 (2013).
2. Masumi A. Hematopoietic stem cell and response to interferon, *Hematopoietic stem cell*, In *Tech book*, (2013).
3. Masumi A., Miyatake S. Kohno T. and Matsuyama T. Interferon regulatory factor-2 regulates hematopoietic stem cells in mouse bone marrow, “Advanced Hematopoietic Stem Cell” , p91-p112, In *Tech Book*, 2012
4. 益見厚子、西島正弘（現薬学会会頭）、ワクチンアジュバントーその有効性と安全性についてー薬学的視点から考える、*薬学雑誌* Vol.131, No. 12, 1721-1722 (2011).
5. 益見厚子、向井遼三郎、第23章 第2節ワクチンの品質管理手法の項、*ワクチンの市場動向と開発・製造実務集*、技術情報協会出版、2012
6. Masumi A. NS5A interacting proteins and progress in anti-hepatitis C virus research. *Curr. Topics in Virology. Research Trend*, Vol. 9, 2011

7. 益見厚子、耐性菌と抗生物質-薬学者が取り組むべき今後の課題はなにか?-富薬 (富山県薬剤師会広報誌)、第 33 巻、No. 261, 33-26, 2011

[学会発表]

細菌型チロシンキナーゼ阻害剤探索系の開発、深澤 秀輔, 益見 厚子、日本薬学会第 135 年回 (2014)

Mycobacterium avium 感染マウスの造血幹細胞の解析

益見 厚子, 持田 恵子, 滝澤 和也, 水上 拓郎, 森 茂太郎, 柴山 恵吾, 浜口 功
日本薬学会第 135 年回 (2014)

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

講演

1) 2011 年 富山大学薬学部薬学経済特別講義の講師

講義題目 “血液製剤・ワクチンの企業における品質管理について” 90 分講演

[学内各種委員]

2008 年-2014 年 日本薬学会代議員

2008 年-2013 年 日本薬学会関東支部幹事

氏名 永倉 透記(NAGAKURA Yukinori)

所属 薬学部薬学科

職種 准教授

生年月日 1965年

[履歴]

[学歴]

1989年3月 東京理科大学 薬学部薬学科 卒業

1991年3月 千葉大学大学院 薬学研究科 総合薬品科学専攻博士前期過程
薬効安全性学講座 修了

[学位]

1998年2月 薬学博士 千葉大学

[職歴]

1991年4月 山之内製薬(株) 創薬研究所 消化器・神経科学領域研究に従事

2005年4月 アステラス製薬(株) 研究本部薬理研究所 神経科学領域研究

2006年4月 Department of Anesthesiology, University of California San Diego, USA (指導教官: Tony L. Yaksh)に留学 麻酔・疼痛に関する研究

2007年4月 アステラス製薬(株) 研究本部 薬理研究所 疼痛に関する研究(主管研究員)

2015年4月 青森大学 薬学部 准教授 (現在に至る)

[受賞]

—

[所属学会]

日本薬理学会、International Association for Study of Pain (IASP)

[教育活動]

[担当科目]

—

[卒業研究指導]

—

[ゼミ指導]

—

[教育指導に関する特記事項]

—

[研究活動]

[研究テーマ]

- ・原因不明の痛みの機序の解明
- ・臨床を良く反映する前臨床評価方法(疾患モデル動物等)の開発
- ・ストレスと不定愁訴(消化器症状等)の関係性の解明

[著書、論文、総説]

<論文>

*: Corresponding author

1. Ishikawa G*, Koya Y, Tanaka H, Nagakura Y. Long-term analgesic effect of a single dose of anti-NGF antibody on pain during motion without notable suppression of joint edema and lesion in a rat model of osteoarthritis. *Osteoarthr Cartil* 2015 (in press).

2. Murai N*, Fushiki H, Honda S, Murakami Y, Iwashita A, Irie M, Tamura S, Nagakura Y, Aoki T. Relationship between serotonin transporter occupancies and

- analgesic effects of AS1069562, the (+)-isomer of indeloxazine, and duloxetine in reserpine-induced myalgia rats. *Neuroscience* 289:262-269, 2015.
3. Ishikawa G*, Nagakura Y, Takeshita N, Shimizu Y. Efficacy of drugs with different mechanisms of action on spontaneous pain at rest and during motion in a rat model of osteoarthritis. *Eur J Pharmacol* 738:111-117, 2014.
4. Ogino S, Nagakura Y*, Tsukamoto M, Watabiki T, Ozawa T, Oe T, Shimizu Y, Ito H. Systemic administration of 5-HT_{2C} receptor agonists attenuates muscular hyperalgesia in reserpine-induced myalgia model. *Pharmacol Biochem Behav* 108:8-15, 2013.
5. Kawasaki-Yatsugi S, Nagakura Y*, Ogino S, Sekizawa T, Kiso T, Takahashi M, Ishikawa G, Ito H, Shimizu Y. Automated measurement of spontaneous pain-associated limb movement and drug efficacy evaluation in a rat model of neuropathic pain. *Eur J Pain* 16:1426-1436, 2012.
6. Nagakura Y*, Takahashi M, Noto T, Sekizawa T, Oe T, Yoshimi E, Tamaki K, Shimizu Y. Different pathophysiology underlying animal models of fibromyalgia and neuropathic pain: comparison of reserpine-induced myalgia and chronic constriction injury rats. *Behav Brain Res* 226:242-249, 2012.
7. Watabiki T, Nagakura Y*, Wegner K, Kakimoto S, Tozier NA, Malkmus SA, Yaksh TL. Assessment of canine sensory function by using sine-wave electrical stimuli paradigm. *Physiol Behav* 101:327-330, 2010.
8. Oe T, Tsukamoto M, Nagakura Y*. Reserpine causes biphasic nociceptive sensitivity alteration in conjunction with brain biogenic amine tones in rats. *Neuroscience* 169:1860-1871, 2010.
9. Nagakura Y*, Oe T, Aoki T, Matsuoka N. Biogenic amine depletion causes chronic muscular pain and tactile allodynia accompanied by depression: A putative animal model of fibromyalgia. *Pain* 146:26-33, 2009.
10. Nagakura Y, Jones TL, Malkmus SA, Sorkin L, Yaksh TL*. The sensitization of a broad spectrum of sensory nerve fibers in a rat model of acute postoperative pain and its response to intrathecal pharmacotherapy. *Pain* 139 569-577, 2008.
11. Kakimoto S*, Nagakura Y, Tamura S, Watabiki T, Shibasaki K, Tanaka S, Mori M, Sasamata M, Okada M. Minodronic acid, a third generation bisphosphonate, antagonizes purinergic P2X_{2/3} receptor function and exerts an analgesic effect in pain models. *Eur J Pharmacol* 589:98-101, 2008.
12. Nagakura Y, Malkmus S, Yaksh TL*. Determination of current threshold for paw withdrawal with sine-wave electrical stimulation in rats: Effect of drugs and alteration in acute inflammation. *Pain* 134:293-301, 2008.
13. Nagakura Y*, Kakimoto S, Matsuoka N. Purinergic P2X receptor activation induces emetic responses in ferrets and *Suncus murinus*. *Br J Pharmacol* 152:464-470, 2007.
14. Kohara A, Nagakura Y, Kiso T, Toya T, Watabiki T, Tamura S, Shitaka Y, Itahana H, Okada M*. Antinociceptive profile of a selective metabotropic glutamate receptor 1 antagonist YM-230888 in chronic pain rodent models. *Eur J Pharmacol* 571:8-16, 2007.
15. Kohara A, Toya T, Tamura S, Watabiki T, Nagakura Y, Shitaka Y, Hayashibe S, Kawabata S, Okada M*. Radioligand binding properties and pharmacological characterization of YM-298198, a high-affinity, selective and noncompetitive antagonist of metabotropic glutamate receptor type 1. *J Pharmacol Exp Ther*

315:163-169, 2005.

16.Nagakura Y*, Okada M, Kohara A, Kiso T, Toya T, Iwai A, Wanibuchi F, Yamaguchi T. Allodynia and hyperalgesia in adjuvant-induced arthritic rats: time course of progression and efficacy of analgesics. *J Pharmacol Exp Ther* 306:490-497, 2003.

17.Nagakura Y*, Kiso T, Miyata K, Ito H, Iwaoka K, Yamaguchi T. The effect of the selective 5-HT₃ receptor agonist on ferret gut motility. *Life Sci* 71:1313-1319, 2002. [IF = 2.527]

18.Kiso T*, Nagakura Y, Toya T, Matsumoto N, Tamura S, Ito H, Okada M, Yamaguchi T. Neurometer measurement of current stimulus threshold in rats. *J Pharmacol Exp Ther* 297:352-356, 2001.

19.Ito H*, Kiso T, Miyata K, Kamato T, Yuki H, Akuzawa S, Nagakura Y, Yamano M, Suzuki M, Naitoh Y, Sakai H, Iwaoka K, Yamaguchi T. Pharmacological profile of YM-31636, a novel 5-HT₃ receptor agonist, in vitro. *Eur J Pharmacol* 409:195-201, 2000.

20.Nagakura Y*, Kiso T, Ito H, Miyata K, Yamaguchi T. The role of 5-hydroxytryptamine₃ and 5-hydroxytryptamine₄ receptors in the regulation of gut motility in the ferret. *Life Sci* 66:PL331-338, 2000.

21.Watanabe K*, Nagakura Y, Hiura N, Tsuchiya S, Horie S. Stimulation of gastric acid secretion by progesterone metabolites as neuroactive steroids in anesthetized rats. *J Physiol Paris* 94:111-116, 2000.

22.Nagakura Y*, Akuzawa S, Miyata K, Kamato T, Suzuki T, Ito H, Yamaguchi T. Pharmacological properties of a novel gastrointestinal prokinetic benzamide selective for human 5-HT₄ receptor versus human 5-HT₃ receptor. *Pharmacol Res* 39:375-382, 1999.

23.Suzuki T*, Iwaoka K, Imanishi N, Nagakura Y, Miyata K, Nakahara H, Ohta M, Mase T. Synthesis of the selective 5-hydroxytryptamine 4 (5-HT₄) receptor agonist (+)-(S)-2-chloro-5-methoxy-4-[5-(2-piperidylmethyl)-1,2,4-oxadiazol-3-yl]aniline. *Chem Pharma Bull* 47:120-122, 1999.

24.Nagakura Y*, Ito H, Kiso T, Naitoh Y, Miyata K. The selective 5-hydroxytryptamine (5-HT)₄-receptor agonist RS67506 enhances lower intestinal propulsion in mice. *Jpn J Pharmacol* 74:209-212, 1997.

25.Yamano M*, Kamato T, Nagakura Y, Miyata K. Effects of gastroprokinetic agents on gastroparesis in streptozotocin-induced diabetic rats. *Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol* 356:145-150, 1997.

26.Nagakura Y*, Ito H, Kamato T, Nishida A, Miyata K. Effect of a selective 5-HT₃ receptor agonist on gastric motility in fasted and fed dogs. *Eur J Pharmacol* 327:189-193, 1997.

27.Nagakura Y*, Sohda K, Ito H, Miyata K. Gastrointestinal motor activity in conscious ferrets. *Eur J Pharmacol* 321:53-57, 1997.

28.Nagakura Y*, Naitoh Y, Kamato T, Yamano M, Miyata K. Compounds possessing 5-HT₃ receptor antagonistic activity inhibit intestinal propulsion in mice. *Eur J Pharmacol* 311:67-72, 1996.

29.Nagakura Y*, Kamato T, Nishida A, Ito H, Yamano M, Miyata K. Characterization of 5-hydroxytryptamine (5-HT) receptor subtypes influencing colonic motility in

- conscious dogs. *Naunyn Schmiedeberg's Arch Pharmacol* 353:489-498, 1996.
30. Nishida A*, Kobayashi-Uchida A, Akuzawa S, Takinami Y, Shishido T, Kamato T, Ito H, Yamano M, Yuki H, Nagakura Y, Miyata K. Gastrin receptor antagonist YM022 prevents hypersecretion after long-term acid suppression. *Am J Physiol* 269:G699-705, 1995.
31. Nishida A*, Takinami Y, Yuki H, Kobayashi A, Akuzawa S, Kamato T, Ito H, Yamano M, Nagakura Y, Miyata K. YM022 [(R)-1-[2,3-dihydro-1-(2'-methylphenacyl)-2-oxo-5-phenyl-1H-1,4-benzodiazepin-3-yl]-3-(3-methylphenyl)urea], a potent and selective gastrin/cholecystokinin-B receptor antagonist, prevents gastric and duodenal lesions in rats. *J Pharmacol Exp Ther* 270:1256-1261, 1994.
32. Kamato T*, Ito H, Nagakura Y, Nishida A, Yuki H, Yamano M, Miyata K. Mechanisms of cisplatin- and m-chlorophenylbiguanide-induced emesis in ferrets. *Eur J Pharmacol* 238:369-376, 1993.
33. Gong D, Uruno T, Nagakura Y, Matsuoka Y, Kubota K*. Effects of perfusion flow rate, prostaglandin F2 alpha, phenylephrine, and serotonin on isolated, perfused brains of spontaneously hypertensive rats. *Brain Res* 482:122-128, 1989.

<総説>

1. 永倉透記, 石川剛, 矢次さちこ, 吉見英治, 竹下暢昭, 青木俊明, 清水保明, 伊東洋行 鎮痛薬の創薬研究における新しい評価系: 前臨床/臨床評価指標の合致を目的とした動物の自発痛関連行動の自動測定 *日本薬理学会雑誌 (Folia Pharmacol Jpn)* 140:211-215, 2012.

<著書>

1. Nagakura Y, Ito H, Shimizu Y. Animal Models of Fibromyalgia. In *New Insights into Fibromyalgia*, Wilke WS eds. (Rijeka, Croatia: InTech) pp. 41-58, 2012.
2. 永倉透記, 塚本三奈, 大江智也, 伊東洋行 線維筋痛症モデル動物の試験方法 IN 疾患モデル動物の作製・評価ノウハウ集 技術情報協会、東京、2012年
3. Nagakura Y. Comorbid Depression/Anxiety in Animal Models of Chronic Pain. In *Advances in Psychology Research. Volume 89*, Alexandra M. Columbus eds. (Nova Science Publishers: New York, USA) pp. 41-58, 2012.

[学会発表]

1. Nagakura Y, Kakimoto S, Shimoshige Y, Aoki T, Matsuoka N. Purinergic P2 receptor activation induces emetic responses in ferrets and *Suncus murinus*. 739.9, *Neuroscience 2006*, Atlanta, GA, USA 2006/10/14-18.

[その他の活動]

—

[公開講座、講演、セミナー]

1. Nagakura Y, Ishikawa G, Kawasaki-Yatsugi S, Ito H. New methodologies in drug discovery research for analgesic agents: Automated measurement of spontaneous pain-associated animal behaviors for alignment of preclinical/clinical endpoints. 85th Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society, Kyoto, Japan, Mar 14-16, 2012.
2. 永倉透記 慢性疼痛治療薬の研究開発戦略: 動物モデルを用いた新しい慢性疼痛治療薬評価方法の開発、日本実験動物学会維持会員懇談会、2011年11月21日 東京
3. Nagakura Y. Reserpine-induced myalgia model. 7th Congress of the European Federation of IASP® Chapters (EFIC®) Satellite Symposium, Hamburg, Germany, Sep

19-20, 2011.

4. Nagakura Y, Akuzawa S, Naitoh Y, Ito H, Yamaguchi T, Miyata K. 5-HT₄ receptor agonists and antagonists: Their effects on gastrointestinal function and therapeutic potential. The 73rd Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society, Yokohama, Japan, Mar 23-25, 2000.

[学内各種委員]

—

氏名 大越 絵実加 (OHKOSHI Emika)

所属 薬学部

職種 准教授

生年月日 1971年01月12日

【履歴】

【学歴】

1993年3月 日本大学薬学部薬学科卒業

1996年3月 日本大学大学院薬学研究科薬学専攻博士前期課程修了

【学位】

博士(薬学) 日本大学

【職歴】

1993年4月 日本大学薬学部薬品化学研究室副手

1996年4月 日本大学薬学部生薬学研究室助手

1998年4月 株式会社エイエルエイ中央研究所研究員

2004年8月 株式会社キリンビール基盤技術研究所(横浜)研究員

2006年4月 奥羽大学薬学部助手

2009年11月 Research assistant professor temporary University of North Carolina at Chapel Hill

2012年12月 明海大学歯学部 MPL 研究教育助教

2015年4月 青森大学薬学部准教授

【受賞】

特記事項なし

【所属学会】

日本薬学会、日本生薬学会、日本薬理学会、日本歯科基礎医学会

【教育活動】

【担当科目】

基礎薬学実習、有機化学・天然物化学実習、機器分析学(分担)、有機構造解析学、医薬品化学

【卒業研究指導】

2015年度 2名

【ゼミ指導】

薬学部担任制で新学年3名を指導

【教育指導に関する特記事項】

1. 薬剤師国家試験支援のため、補講を行っている。
2. 薬用植物園見学を行っている。

【研究活動】

【研究テーマ】

1. 天然物由来成分の単離・構造解析および生物活性
2. 漢方方剤中の多成分系に関する新規生物活性
3. 機能性食品の素材開発

【著書、論文、総説】

1. Yu FL., He XY., Gu C., Ohkoshi E., Wang LT., Wang SB., Lai CY., Yu L., Morris-Natschke SL., Lee KH., Xie L., Discovery of novel antitumor

- dibenzocyclooctatetraene derivatives and related biphenyls as potent inhibitors of NF- κ B signaling pathway, *Bioorganic & Medicinal Chemistry*, 22:325-333 (2014)
2. Wang XF., Guan F., Ohkoshi E., Guo W., Wang L., Zhu DQ., Wang SB., Wang LT., Hamel E., Yang D., Li L., Qian K., Morris-Natschke SL., Yuan S., Lee KH., Xie L., Optimization of 4-(N-cycloamino)phenylquinazolines as a novel class of tubulin polymerization inhibitors targeting the colchicine site., *Journal of Medicinal Chemistry*, 57:1390-1402 (2014)
 3. Sakagami H., Ohkoshi E., Kato T., Shimoyama T., Kitajima M., Oizumi H., Oizumi T., Inhibition of PGE₂ production by *Sasa Senanensis* Rehder alkaline extract in IL-1 β -stimulated human gingival and periodontal ligament fibroblasts., *Journal of Pharmacological Sciences.*, 124:113-116 (2014)
 4. Ohno H., Miyoshi S., Araho D., Kanamoto T., Terakubo S., Nakashima H., Tsuda T., Sunaga K., Amano S., Ohkoshi E., Sakagami H., Satoh K., Yamamoto M., Efficient utilization of Licorice root by alkaline extraction., *In vivo.*, 28: 785-794(2014)-09., 785-794

(他 1998 年～2013 年 29 報原著論文査読有)

【学会発表】

1. 大越絵実加 1、梅村直己 2、坂上宏 2 (1 明海大・歯・MPL、2 明海大・歯・薬理) 漢方製剤柴胡剤に含まれるバイカリンおよびバイカレインは頭頸部扁平上皮癌がん幹細胞マーカー CD44 を刺激する 2014 年 03 月日本薬理学会 87 年会仙台
2. 梅村直己 1、大越絵実加 1、南部俊之 1,2、嶋田淳 2、坂上宏 1(1 明海大・歯・薬理、2 明海大・歯・口腔外科) 頭頸部扁平上皮がん幹細胞を標的とした化学療法 2014 年 03 月日本薬理学会 87 年会仙台
3. 大越絵実加 1、梅村直己 2、坂上宏 2 (1 明海大・歯・MPL、2 明海大・歯・薬理) 頭頸部扁平上皮癌における berberine の Notch-1 のダウンレギュレーション 2014 年 9 月第 56 回歯科基礎医学会学術大会(福岡)
4. 大越絵実加 1、梅村直己 2、坂上宏 2 (1 明海大・歯・MPL、2 明海大・歯・薬理) 生薬に含まれるバイカレインは頭頸部扁平上皮癌の CD44 を過剰に刺激することによって細胞周期 G2/M 期のアポトーシス抵抗性を増幅する。2015 年 03 月日本薬理学会 88 年会名古屋

(他 1994 年～2013 年国際学会 2 演題を含む 23 演題学会発表)

【研究費の取得状況】

学術研究助成基金助成金 平成 26-28 年度 基盤研究 C (代表者：大越 絵実加)

口腔癌がん幹細胞の標的治療(抗 CD44 療法)後に誘発される多剤耐性化の解明と克服

【その他の活動】

特記事項なし

【公開講座、講演、セミナー】

出張講義：

医薬品以外の薬学分野－機能性食品：天然物由来の肥満改善素材－

【学内各種委員】

オープンキャンパス担当委員、卒業試験委員会委員、学生実習委員会委員、OSCE 運営委員会委員、共通機器運営委員会委員、薬用植物園運営委員会委員、ハラスメント防止対策委員会委員

氏名 金光 兵衛 (KANEMITSU Hyoe)

所属 薬学部薬学科

職名 准教授

生年月日 1967年8月30日

【履 歴】

【学 歴】

1992年3月 北海道大学薬学部薬学科卒業

1994年3月 北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了

2004年3月 大阪市立大学大学院医学研究科博士課程修了

【学 位】

博士 (医学)

【職 歴】

1994年4月～2000年3月 北海道医療大学薬学部助手 (免疫微生物学教室)

2004年4月 青森大学薬学部医療薬学科助手 (生体分析化学研究室)

2006年4月 青森大学薬学部薬学科講師 (生体分析化学研究室)

2010年4月 青森大学薬学部准教授 (現在に至る)

【所属学会】

日本生化学会、日本神経化学会、補体研究会

【教育活動】

【担当科目】

分析化学、生体分析化学、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、実務実習事前学習、基礎薬学実習、分析化学・放射化学実習、地域貢献基礎演習、創薬学概論

【卒業研究指導】

2006年度 卒業研究 (生物工学科) : 1名

2007年度 卒業研究 (薬学部) : 2名

2008年度 卒業研究 (薬学部) : 1名

2011年度 卒業研究 (薬学部) : 3名

2012年度 卒業研究 (薬学部) : 2名

2013年度 卒業研究 (薬学部) : 3名

2014年度 卒業研究 (薬学部) ; 1名

【ゼミ指導】

2006年度 : 4名

2007年度 : 7名

2008年度 : 8名

2009年度 : 12名

2010年度 : 14名

2011年度 : 17名

2012年度 : 17名

2013年度 : 18名

2014年度 : 14名

【教育指導に関する特記事項】

1. 「分析化学」、「生体分析化学」に関しては、講義の理解度を深めるために、一つ前の講義内容に関する小テストを毎時間実施している。
2. 「分析化学実習」に関しては、実習内容の理解度を深めるためとプレゼンの練習を兼ねて、課題を与えそれに対するディスカッションを実施している。

3. 薬剤師国家試験支援のための補講を行っている。
4. 共用試験 (CBT) 支援のための補講を行っている。

【研究活動】

【研究テーマ】

- (1) SRCR ドメインを有するタンパク質の機能解析に関する研究
- (2) アルツハイマー病の発症機構の解明と治療薬の探索

【著書、論文、総説】

Tomiyama T., Nagata T., Shimada H., Teraoka T., Fukushima A., Kanemitsu H., Takuma H., Kuwano R., Imagawa M., Ataka S., Wada Y., Yoshioka E., Nishizaki T., Watanabe Y., Mori H.: A new amyloid β variant favoring oligomerization in Alzheimer-type dementia. *Ann Neurol.*, 63, 377-387 (2008)

【学会発表】

1. 金光兵衛、藤友千夏、柳谷和美、熊崎隆：cSRCR は LPS と結合する。
第 83 回 日本生化学大会 (BMB2010)、神戸、2010 年 12 月
2. 金光兵衛、熊崎隆：タンパク質分解酵素を用いた cSRCR の cHb 結合部位の探索
第 81 回 日本生化学大会 (BMB2008)、神戸、2008 年 12 月
3. Kanemitsu H., Saitou C., Kato S., Tanaka R., Mori T., Kumazaki T. :
Molecular characterization of chicken SRCR 第 80 回 日本生化学大会
(BMB2007)、横浜、2007 年 12 月

【その他の活動】

【公開講座、講演、セミナー】

タンパク質の異常とその疾患：第 17 回カントリージェントルマン会 2007 年 3 月
生命科学の最前線 ～病気とタンパク質～：教員免許状更新講習 2009 年 7 月
生命科学の最前線 ～病気とタンパク質～：教員免許状更新講習 2010 年 7 月

【学内各種委員】

全学: FD 委員会、組換え DNA 実験安全委員会

薬学部：国試対策委員会 (委員長)、中央機器運営委員会 (委員長)、教務委員会、
CBT 運営委員会、OSCE 運営委員会、事前学習実施委員会、実務実習実施委員会、
ワークショップ委員会、動物センター運営委員会

氏名 上家 勝芳 (KAMIIE Katsuyoshi)

所属 薬学部薬学科

職名 講師

生年月日 1967年7月6日

[履 歴]

[学 歴]

1990年3月 岩手大学農学部農芸化学科卒業

1992年3月 岩手大学大学院農学研究科修士課程修了

1992年10月 岩手大学大学院研究生

1995年3月 岩手大学大学院連合農学研究科博士課程退学

[学 位]

博士(農学)

[職 歴]

1995年4月 青森大学工学部生物工学科助手

2004年4月 青森大学薬学部医療薬学科助手

2006年4月 青森大学薬学部薬学科講師

2013年4月 青森大学薬学部薬学科准教授

[所属学会]

日本分子生物学会、日本生化学会、日本農芸化学会

[教育活動]

[担当科目]

衛生化学 I、化学入門、基礎薬学実習(分担)、生化学実習、薬学総合演習 I(分担)、薬学総合演習 II(分担)、特別実習(分担)、薬学セミナー(分担 2012年まで)、物質生化学(2013年まで)、分子生物学(2012年まで)、食品衛生学(分担 2012年まで)

[卒業研究指導]

2010年卒業研究: 7名

2011年卒業研究: 6名

2012年卒業研究: 10名

2013年卒業研究: 13名

2014年卒業研究: 13名

[ゼミ指導]

薬学部担任制で各学年3~5名を指導

[教育指導に関する特記事項]

1. 1年生の基礎学力を底上げするためのリメディアル教育(化学)を行った。
2. 薬剤師国家試験対策の授業を行った。
3. CBT 対策の授業を行った。
4. 担当科目の補講を行った。
5. 教員免許更新制の講師として、免許状更新講習を行った。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) グリチルレチン酸およびイソチオシアネート化合物ががん細胞に与える影響
- (2) 細胞周期とがんに関わるタンパク質と遺伝子の解析
- (3) タンパク質生合成に関わる翻訳因子(ペプチド鎖伸長因子)の解析

[著書、論文、総説]

1. Yamaguchi H, Noshita T, Yu T, Kidachi Y, Kamiie K, Umetsu H, Ryoyama K. Novel

- effects of glycyrrhetic acid on the central nervous system tumorigenic progenitor cells: induction of actin disruption and tumor cell-selective toxicity. *Eur J Med Chem.* 45(7):2943-8.(2010).
2. Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K. Glycyrrhetic acid induces anoikis-like death and cytoskeletal disruption in the central nervous system tumorigenic cells. *Biol Pharm Bull.* 33(2):321-4.(2010).
 3. Yamaguchi H, Akitaya T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K. Mouse 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2 for human application: homology modeling, structural analysis and ligand-receptor interaction. *Cancer Inform.* 10:287-95. (2011).
 4. Yamaguchi H, Yu T, Noshita T, Kidachi Y, Kamiie K, Yoshida K, Akitaya T, Umetsu H, Ryoyama K. Ligand-receptor interaction between triterpenoids and the 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2 (11 β HSD2) enzyme predicts their toxic effects against tumorigenic r/m HM-SFME-1 cells. *J Biol Chem.* 286(42):36888-97. (2011).
 5. Yamaguchi H, Yu T, Kidachi Y, Akitaya T, Yoshida K, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K. Selective toxicity of glycyrrhetic acid against tumorigenic r/m HM-SFME-1 cells is potentially attributed to downregulation of glutathione. *Biochimie.* 93(7):1172-8. (2011).
 6. Yamaguchi H, Akitaya T, Yu T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K. Homology modeling and structural analysis of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2. *Eur J Med Chem.* 46(4):1325-30. (2011).
 7. Yamaguchi H, Akitaya T, Yu T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K. Molecular docking and structural analysis of cofactor-protein interaction between NAD⁺ and 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2. *J Mol Model.* 18(3):1037-48. (2012).
 8. Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H. Structural insight into the ligand-receptor interaction between glycyrrhetic acid (GA) and the high-mobility group protein B1 (HMGB1)-DNA complex. *Bioinformatics.* 8(23):1147-53. (2012).
 9. Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H. Homology modeling and structural analysis of human P-glycoprotein. *Bioinformatics.* 8(22):1066-74. (2012).
 10. Yamaguchi H, Akitaya T, Kidachi Y, Kamiie K, Umetsu H. Homology modeling and structural analysis of human γ -glutamylcysteine ligase catalytic subunit for antitumor drug development. *J Biophys Chem,* 3, 238-248. (2012).
 11. 上家勝芳 (分担執筆) : 医療・生命・薬学英语、ムイスリ出版、2013年3月
 12. Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Prediction of the possible inhibitory effect of 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate (6MITC) and its analogs on P-glycoprotein (P-gp) by in silico analysis of their interaction energies. *Int J Comput Bioinfo In Silico Modeling.* 2 (4), 206-212. (2013).
 13. Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Utilization of 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate for sensitization of tumor cells to antitumor agents in combination therapies. *Biochemical Pharmacology* 86, 458-468. (2013).
 14. Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Structural insight into the ligand-receptor interaction between 6-(methylsulfinyl)hexyl

isothiocyanate and multidrug resistance-associated protein 1 nucleotide-binding domain 1. *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.* 3(1), 310-314. (2014).

15. Yamaguchi H†, Kamiie K†, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. (†These authors contributed equally to this work.) Intracellular accumulation of structurally varied isothiocyanates correlates with inhibition of nitric oxide production in proinflammatory stimuli-activated tumorigenic macrophage-like cells. *Bioorg. Med. Chem.* 22, 440–446. (2014).

16. Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Structural basis for the interaction of 6-(methylsulfinyl) hexyl isothiocyanate with inducible nitric oxide synthase. *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.* 3(4), 426-432. (2014).

[学会発表]

1. Selective antiproliferative effects of glycyrrhetic acid on r/m HM-SFME-1 cells. 日本農芸化学会 2010 年度大会 (東京)、2010 年

2. Antiproliferative effects of isothiocyanates and glycyrrhetic acid on mouse tumor cells are attributed to downregulation of glutathione. 第 34 日本分子生物学会年会 (横浜)、2011 年

3. 甘草成分の選択的抗がん細胞作用におけるグルタチオン抑制について. 日本薬学会フォーラム 2012 : 衛生薬学・環境トキシコロジー (名古屋)、2012 年

4. イソチオシアネートとグリチルレチン酸のマウスがん細胞に及ぼす影響. 第 51 回日本薬学会東北支部大会 (青森)、2012 年

5. 薬局実務実習を終えて 補色による調剤過誤防止策. 第 51 回日本薬学会東北支部大会 (青森)、2012 年

6. マウスがん細胞の遺伝子発現に対するグリチルレチン酸の影響. 第 36 日本分子生物学会年会 (神戸)

7. 中枢神経系癌細胞の細胞周期タンパク質に対するグリチルレチン酸の影響. 2014 年度農芸化学会大会 (東京)

[その他の活動]

[学内各種委員]

(全学) 情報・IT 委員会、組換え DNA 実験安全委員会、教学改革タスクフォース、学習支援センター、教務委員会

(薬学) 基礎学力向上委員会 (委員長)

卒業試験委員会 (委員長)

共用試験実施委員会 (OSCE 実施委員会、CBT 実施委員会)、

共通機器運営委員会、教務委員会、国試対策委員会、学生募集委員会

高校生科学研究コンテスト実施委員会、薬学部同窓会事務局

[その他]

教員免許状更新講習会(生命科学の最前線)講師、2011 年 7 月

教員免許状更新講習会(生命科学の最前線)講師、2012 年 7 月

教員免許状更新講習会(実験・演習から学ぶ分析科学)講師、2014 年 7 月

薬学共用試験 CBT モニター員、2012 年～2013 年

第 1 回高校生科学研究コンテストの企画・運営、2013 年 11 月

第2回高校生科学研究コンテストの企画・運営、2014年11月

薬学部同窓会の開催、2013年11月

職業体験（青森市立西中学校）を担当 2014年7月

学生募集のため高校訪問、岩手県北部、2014年7月

後援会 岩手支部総会、2010年9月

後援会 三八上北十三支部総会、2013年7月

後援会 三八上北十三支部総会、2014年7月

氏名 木立 由美 (KIDACHI Yumi)

所属 薬学部薬学科

職名 准教授

生年月日 1966年8月25日

[履 歴]

[学 歴]

1989年3月 弘前大学理学部生物学科卒業

[学 位]

学士(理学) 1989年3月 弘前大学

博士(薬学) 2010年8月 北海道薬科大学

[職 歴]

1989年4月 株式会社 エス・アール・エル 臨床化学部

1994年4月 青森大学工学部生物工学科 技術員

2000年4月 青森大学工学部生物工学科 助手

2004年4月 青森大学薬学部医療薬学科 助手

2006年4月 青森大学薬学部薬学科 助手

2008年4月 青森大学薬学部薬学科 助教

2010年4月 青森大学薬学部薬学科 講師

2013年4月 青森大学薬学部薬学科 准教授

[所属学会]

日本癌学会、日本分子生物学会

[教育活動]

[担当科目]

機能形態学Ⅰ(人体の構造と機能)、機能形態学Ⅱ(生体機能の調節Ⅰ、1年)機能形態学Ⅱ(2年)、生化学実習、基礎薬学実習(2年)、基礎薬学実習Ⅰ(1年)実務実習事前実習、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、特別実習

[卒業研究指導]

2011年卒業研究: 3名

2012年卒業研究: 3名

2013年卒業研究: 13名

2014年卒業研究: 15名

2015年卒業研究: 12名

[ゼミ指導]

1年~3年: 6名

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験合格支援のため、基礎薬学(生物系)の補講を行っている。
2. 薬学教養試験(CBT)合格支援のため、生物系科目の補講を行っている。
3. 成績不振の学生に対して、補講を行わない学生の学力向上に努めている。
4. 学生実習の各専門実習全般を取りまとめ、学生実習の充実に努めている。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 癌の微小な転移をコントロールする方法の開発
- (2) 潰瘍性大腸炎に対する治療薬の開発

[著書、論文、総説]

- 1, Yu T, Yamaguchi H, Noshita T, Kidachi Y, Umetsu H, Ryoyama K., Selective cytotoxicity of glycyrrhetic acid against tumorigenic r/m HM-SFME-1 cells: potential involvement of H-Ras downregulation. *Toxicol Lett.* Feb 192:425-30. (2010)
- 2, Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K., Glycyrrhetic acid induces anoikis-like death and cytoskeletal disruption in the central nervous system tumorigenic cells. *Biol Pharm Bull.* 33:321-4.(2010)
- 3, Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K., Novel effects of glycyrrhetic acid on the central nervous system tumorigenic progenitor cells: Induction of actin disruption and tumor cell-selective toxicity. *Eur J Med Chem,* 45: 2943-8. (2010)
- 4, Yamaguchi H, Akitaya T, Yu T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K, Homology modeling and structural analysis of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2. *Eur J Med Chem,* 46, 1325-1330 (2011)
- 5, Yamaguchi H, Akitaya T, Yu T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K, Molecular docking and structural analysis of cofactor-protein interaction between NAD⁺ and 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2. *J Mol Model,* 18, 1037-1048 (2012)
- 6, Yamaguchi H, Yu T, Kidachi Y, Akitaya T, Yoshida K, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K, Selective toxicity of glycyrrhetic acid against tumorigenic r/m HM-SFME-1 cells is potentially attributed to downregulation of glutathione. *Biochimie,* 93, 1172-1178 (2011)
- 7, Yamaguchi H, Yu T, Noshita T, Kidachi Y, Kamiie K, Yoshida K, Akitaya T, Umetsu H, Ryoyama K., Ligand-receptor interaction between triterpenoids and 11 β HSD2 predicts their toxic effects against tumorigenic r/m HM-SFME-1 cells. *J Biol Chem.,* 286, 36888-36897 (2011)
- 8, Yamaguchi H, Akitaya T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K., Mouse 11 β -Hydroxysteroid Dehydrogenase Type 2 for Human Application: Homology Modeling, Structural Analysis and Ligand-Receptor Interaction. *Cancer Informatics,* 10, 287-295 (2011)
- 9, Yamazaki A, Kidachi Y, Minokawa T., "Micromere" formation and expression of endomesoderm regulatory genes during embryogenesis of the primitive echinoid *Prionocidaris baculosa*. *Dev Growth Differ.,* 54, 566-578 (2012)
- 10, Yamaguchi H, Akitaya T, Kidachi Y, Kamiie K, Umetsu H, Homology modeling and structural analysis of human γ -glutamylcysteine ligase catalytic subunit for antitumor drug development. *J Biophys Chem.,* 3, 238-248(2012)
- 11, Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Homology modeling and structural analysis of human P-glycoprotein. *Bioinformatics,* 8, 1066-1074(2012)
- 12, Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Structural insight into the ligand-receptor interaction between glycyrrhetic acid (GA) and the high-mobility

- group protein B1 (HMGB1)-DNA complex. *Bioinformation*, 8, 1147-1153 (2012)
- 13, Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K., Utilization of 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate for sensitization of tumor cells to antitumor agents in combination therapies. *Biochem Pharmacol.* 15;458-68.(2013)
- 14 Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Prediction of the possible inhibitory effect of 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate (6MITC) and its analogs on P-glycoprotein (P-gp) by in silico analysis of their interaction energies, *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.*, 2: 206-212(2013)
- 15 Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Intracellular accumulation of structurally varied isothiocyanates correlates with inhibition of nitric oxide production in proinflammatory stimuli-activated tumorigenic macrophage-like cells. *Bioorg Med Chem.*, 22: 440-446 (2014)
- 16 Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K. Structural insight into the ligand-receptor interaction between 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate and multidrug resistance-associated protein 1 nucleotide-binding domain 1, *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.*, 3, 310-314(2014)
- 17 Yamazaki A, Kidachi Y, Yamaguchi M, Minokawa T. Larval mesenchyme cell specification in the primitive echinoid occurs independently of the double-negative gate., *Development.*, 141, 2669-79 (2014)
- 18 Yamaguchi H, Kamiie K, Kidachi Y, Noshita T, Umetsu H, Fuke Y, Ryoyama K, Structural basis for the interaction of 6-(methylsulfinyl) hexyl isothiocyanate with inducible nitric oxide synthase, *Int J Comput Bioinfo In Silico Model.*, 3, 426-432

[学会発表]

- 1, Yamaguchi, H., Yu, T., Noshita, T., Kidachi, Y., Kamiie, K., Umetsu, H., Ryoyama, K. Selective antiproliferative effects of glycyrrhetic acid on r/m HM-SFME-1 cells, 2010年3月、日本農芸化学会 2010年度大会
- 2, 山口秀明、于涛、木立由美、野下俊朗、上家勝芳、秋田谷龍男、梅津博紀、獺山一雄、グリチルレチン酸の選択的抗癌作用におけるグルタチオン産生能に関わる研究、2011年3月、日本農芸化学会 2011年度大会
- 3, Yamaguchi H, Yu T, Noshita T, Kidachi Y, Kamiie K, Yoshida K, Akitaya T, Umetsu H, Ryoyama K, Selective toxicity of glycyrrhetic acid against the CNS-related tumorigenic cells, 2011年8月、Drug Discovery & Diagnostic Development Week 2011 (New Frontiers in Cancer) IBC Life Science
- 4, 山崎敦子、木立由美、美濃川拓哉、ウニ類の「祖先型」幼生骨片形成機構、2011年9月、日本動物学会第82回大会
- 5, 上家勝芳、木立由美、野下俊朗、山口秀明、梅津博紀、獺山一雄、Antiproliferative effects of isothiocyanates and glycyrrhetic acid on mouse tumor cells are attributed to downregulation of glutathione, 2011年12月、第34回日本分子生物学会年会
- 6, 西川耀、野下俊朗、大内秀一、木立由美、齊藤安貴子、*Aptenia cordifolia* から単離されたネオリグナン、*Apteniol* 類の合成、2012年9月、農芸化学会中四国支部大会第34回講演会
- 7, 山崎敦子、木立由美、美濃川拓哉 原始的ウニ・キダリスの間充織特異化メカニズム、2012年9月、日本動物学会 第83回大会
- 8, 山口秀明、木立由美、上家勝芳、野下俊朗、梅津博紀、獺山一雄、甘草成分の選択的

抗がん細胞作用におけるグルタチオン抑制について、2012年10月、日本薬学会フォーラム2012：衛生薬学・環境トキシコロジー

9, 木立由美、獵山一雄、"6-(Methylsulfinyl)hexyl Isothiocyanate (6-MITC)の潰瘍性大腸炎に対する治療効果、2012年10月、第51回日本薬学会東北支部大会

10, 上家勝芳、木立由美、野下俊朗、獵山一雄、イソチオシアネートとグリチルレチン酸のマウスがん細胞に与える影響、2012年10月、第51回日本薬学会東北支部大会

11, 上家勝芳、木立由美、幕内志野、山口秀明、梅津博紀、獵山一雄、マウスがん細胞の遺伝子発現に対するグリチルレチン酸の影響、2013年12月、第36回日本分子生物学会年会

12, 伊藤大輔、川瀬裕太、清水涼平、田中大樹、上家勝芳、木立由美、野下俊朗、梅津博紀、獵山一雄、山口秀明、中枢神経系癌細胞の細胞周期タンパク質に対するグリチルレチン酸の影響、2014年3月、2014年度農芸化学学会大会

【研究費の取得状況】

1, マウス腹腔マクロファージに対する食品成分の炎症抑制効果 財団法人青森学術文化振興財団（助成金）、900,000円、2011年4月～2012年3月

【その他の活動】

【学内各種委員】

学生実習委員会、卒業試験委員会、OSCE運営委員会、動物センター運営委員会、予算委員会、入試委員会（編入試験）、教務委員会、事前学習実施委員会、建物委員会、薬学教育評価機構対策委員会、日本高等教育評価機構対策委員会、教学改革タスクフォース

【学外各種委員】

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員（2012-2013年）

氏名 佐藤 昌泰 (SATO Masayasu)

所属 薬学部薬学科

職名 講師

生年月日 1969 年 8 月 2 日

[履 歴]

【学 歴】

1994 年 3 月 北海道大学水産学部水産化学科卒業

2002 年 3 月 北海道大学大学院地球環境科学研究科大気海洋圏環境科学専攻修了

[学 位]

博士 (地球環境科学)

【職 歴】

2004 年 4 月 青森大学薬学部助手

2007 年 4 月 青森大学薬学部助教

2010 年 4 月 青森大学薬学部講師 (現在に至る)

[所属学会]

日本地球化学会、日本環境化学会

[教育活動]

【担当科目】

情報科学、情報科学演習 I、情報科学演習 II、環境科学

[教育指導に関する特記事項]

薬剤師国家試験支援のため、補講を行っている。

[研究活動]

【研究テーマ】

(1) 大気中微粒子の濃度変動

(2) 古環境におけるプロキシの開発

[著書、論文、総説]

1. 佐藤昌泰、佐藤英助：札幌市内における河川水中水銀濃度の測定、雪国環境研究第 13 号、2007

2. 閻華、佐藤昌泰、佐藤英助：青森市内における浮遊性粒子状物質の分布及びその北京との比較 雪国環境研究第 14 号、2008

3. 閻華、佐藤昌泰、佐藤英助：青森市内及び北京市における浮遊粒子状物質の分布の変化 雪国環境研究第 15 号、2009

4. 佐藤昌泰、佐藤英助：弘前市と札幌市における浮遊粒子状物質の分布 雪国環境研究第 16 号、2010

[学会発表]

Estrogen levels of river water in Tokyo, Aomori and Sapporo, Japan

PACIFICHEM 2010、2010 年 12 月、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル

【その他の活動】

【学内各種委員】

国家試験対策委員会

薬学共用試験委員会

共通機器運営委員会

氏名 鈴木 克彦 (Suzuki, Katsuhiko)
所属 薬学部
職種 准教授
生年月日 1967年3月20日

[履 歴]

[学 歴]

1990年3月 神奈川大学工学部応用化学科卒業
1992年3月 神奈川大学大学院理工学研究科博士前期課程修了
1996年3月 東京工業大学大学院生命理工学研究科博士後期課程修了

[学 位]

博士(理学) 東京工業大学

[職 歴]

1996年4月 明治乳業株式会社ヘルスサイエンス研究所専任研究員
1997年4月 理化学研究所国際フロンティア研究システム研究員
1999年4月 いわき明星大学理工学部研究助手
2005年4月 株式会社三菱化学生命科学研究所主任研究員
2010年4月 (独)科学技術振興機構 ERATO 伊藤グライコトリロジープロジェクト研究員
2015年4月 青森大学薬学部薬学科准教授(現在に至る)

[兼務歴]

2010年4月 (独)理化学研究所伊藤細胞制御化学研究室客員研究員(現在に至る)
2011年4月 前橋工科大学非常勤講師(2014年3月まで)

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本化学会、日本糖質学会、日本農芸化学会

[教育活動]

[担当科目]

有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ、基礎薬学実習、有機化学・天然物化学実習、薬学総合演習Ⅰ、薬学総合演習Ⅱ、特別実習

[卒業研究指導]

2015年4月着任につき未定

[ゼミ指導]

2015年4月着任につき未定

[教育指導に関する特記事項]

1. 薬剤師国家試験合格支援の補講を準備
2. 成績不振の学生に対する補講の準備
3. 卒業研究に係る高度な研究実現に向けた他機関との連携を準備

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 生理活性物質の創製および分析
2. 人工機能性分子の開発

[著書、論文、総説]

- 1 Suzuki, K.; Ito, Y.; Kanie, O. Synthetic study of 3-fluorinated sialic acid derivatives; *Carbohydr. Res.*, 406, 1-9 (2015).
- 2 Son, S.-H.; Daikoku, S.; Ohtake, A.; Suzuki, K.; Kabayama, K.; Ito, Y.; Kanie, O. Syntheses of lactosyl ceramide analogues carrying novel bifunctional BODIPY dyes directed towards the differential analysis of multiplexed glycosphingolipids by MS/MS using iTRAQ; *ChemCommun*, 50, 3010-3013 (2014).
- 3 Shioiri, Y.; Suzuki, K.; Daikoku, S.; Kurimoto, A.; Ito, Y.; Kanie, O. Stereospecific generation and analysis of α - and β -hemiacetals of monosaccharides in gas phase; *Carbohydr. Res.*, 382, 43-51 (2013).
- 4 Ohtake, A.; Daikoku, S.; Suzuki, K.; Ito, Y.; Kanie, O. Analysis of the cellular dynamics of fluorescently tagged glycosphingolipids by using a nanoLC- MS/MS platform; *Anal. Chem.*, 85, 8475-8482 (2013).
- 5 Suzuki, K.; Ohtake, A.; Ito, Y.; Kanie, O. Synthesis of a fluorescently tagged sialic acid analogue useful for live-cell imaging; *ChemCommun*, 48, 9744-9746 (2012).
- 6 Suzuki, K.; Ito, Y.; Kanie, O. An improved method for the synthesis of protected glycosyl fluorides from thioglycosides using N,N-diethylaminosulfur trifluoride (DAST); *Carbohydr. Res.*, 359, 81-91 (2012).
- 7 Kanie, O.; Kanie, Y.; Daikoku, S.; Shioiri, Y.; Kurimoto, A.; Mutsuga, S.; Goto, S.; Ito, Y.; Suzuki, K. Multistage mass spectrometric information obtained by deconvolution of energy-resolved spectra acquired by triple- quadrupole mass spectrometry; *Rapid Commun. Mass Spectrom.* 25, 1617-1624 (2011).
- 8 Daikoku, S.; Ono, Y.; Ohtake, A.; Hasegawa, Y.; Fukusaki, E.; Suzuki, K.; Ito, Y.; Goto, S.; Kanie, O. Fluorescence-monitored zero dead-volume nanoLC-microESI-QIT-TOF MS for analysis of fluorescently tagged glycosphingolipids; *Analyst*, 136, 1046-1050 (2011).

[学会発表]

- 1 1分子修飾探針を用いた原子間力顕微鏡による糖タンパク質表面の観察; 第33回日本糖質学会年会 (名古屋、2014) 鈴木 克彦、伊藤 幸成、蟹江 治
- 2 シクロデキストリン結合 AFM 探針の官能基化; 日本化学会第94春季年会 (名古屋、2014) 鈴木克彦、伊藤幸成、蟹江 治
- 3 3-Fluorinated sialic acid derivatives; synthesis and applications. Suzuki, K.; Ohtake, A.; Daikoku, S.; Ito, Y.; Kanie, O. 5th Asian Communication of Glycobiology and Glycotechnology (2013, Khon Kaen)
- 4 シクロデキストリン結合探針を用いた糖タンパク質の AFM 観察; 第32回日本糖質学会年会 (大阪、2013) 鈴木 克彦、伊藤 幸成、蟹江 治
- 5 蛍光糖脂質アナログを用いた細胞内糖鎖修飾メカニズムの解明; 第32回日本糖質学会年会 (大阪、2013) 大竹 敦子、大黒 周作、鈴木 克彦、伊藤 幸成、蟹江 治
- 6 iTRAQ を用いた新規な GSL 代謝物の定量化戦略: 複数の GSL 代謝物サンプル間で定量的比較を行うために; 第32回日本糖質学会年会 (大阪、2013) 孫 尚鉉、大黒 周作、大竹 敦子、鈴木 克彦、樺山 一哉、伊藤 幸成、蟹江 治

[その他の活動]

科学技術振興機構の平成27年度伊藤グライコトリロジープロジェクト特別重点研究
(総括：伊藤幸成 氏、理化学研究所) に研究分担者として参画する。

[公開講座、講演、セミナー]

2015年4月着任につき講演題目および内容を考案中

[学内各種委員]

国試対策委員会、卒業試験委員会、CBT 運営委員会、学生実習委員会、薬学部学生 委
員会、共通機器運営委員会、危険物管理委員会

氏名 天内 博康 (AMANAI Hiroyasu)

所属 薬学部薬学科

職種 講師

生年月日 1967 年 1 月 29 日

[履歴]

[学歴]

1990 年 4 月 青森短期大学商経科第二部入学

1992 年 3 月 青森短期大学商経科第二部卒業

1993 年 4 月 青森大学社会学部社会学科入学

1995 年 3 月 青森大学社会学部社会学科卒業

[学位]

社会学士

[職歴]

1985 年 4 月 株式会社日誠情報システムズ 入社

1987 年 3 月 株式会社日誠情報システムズ 退社

1987 年 4 月 青森県ソフトウェアサービス株式会社 入社

1993 年 3 月 青森県ソフトウェアサービス株式会社 退社

1995 年 4 月 学校法人青森山田学園 採用 青森短期大学 助手

2005 年 4 月 青森短期大学 講師

2012 年 4 月 青森大学薬学部薬学科 講師

[受賞]

[所属学会]

情報処理学会, 情報文化学会

[教育活動]

[担当科目]

(2012 年度) 情報科学演習 I, 情報科学演習 II, 情報処理 I, 情報処理 III, 情報処理 IV

(2013 年度) 情報リテラシー, 情報の集計・分析, 情報科学演習 II

(2014 年度) 情報リテラシー, 情報の集計・分析, プレゼンテーション, 基礎演習, 地域貢献基礎演習, キャリアデザイン II A

(2015 年度) 情報リテラシー, 情報の集計・分析, プレゼンテーション, 基礎演習, 地域貢献基礎演習, 地域貢献プランニング, キャリアデザイン IA, キャリアデザイン IB, キャリアデザイン IIA, キャリアデザイン IIB,

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

[教育指導に関する特記事項]

[研究活動]

[研究テーマ]

学習支援システムの活用, プログラミング教育

[著書、論文、総説]

2003 年 3 月 『短期大学における教科別授業の工夫』(論文) 共著
青森大学・青森短期大学学術研究会研究紀要

2013 年 11 月 『Moodle を活用した情報科目教育の実践』(研究ノート)
青森大学学術研究会研究紀要

[学会発表]

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

2012 年 10～11 月 青森県立青森中央高等学校 「プレゼンテーション法」

2013 年 10～11 月 青森県立青森中央高等学校 「プレゼンテーション法」

2014 年 10～11 月 青森県立青森中央高等学校 「プレゼンテーション法」

[学内各種委員]

卒業試験委員会

CBT 運営委員会

OSCE 運営委員会

HP・企画運営委員会

氏名 熊崎 三枝子

所属 薬学部 薬学科

職種 講師

生年月日 1953 年 8 月 28 日

[履歴]

[学歴]

北海道大学薬学部薬学科卒業

[学位]

[職歴]

1976 年 6 月～1980 年 3 月：北海道大学機器分析センター勤務

2009 年 4 月～2013 年 3 月：調剤薬局勤務

[受賞]

[所属学会]

[教育活動]

[担当科目]

薬学部：処方解析学、調剤学実習、実務実習事前実習

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

[教育指導に関する特記事項]

[研究活動]

[研究テーマ]

[著書、論文、総説]

[学会発表]

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

[学内各種委員]

薬学部 OSCE 運営委員会

薬学部 事前学習実施委員会

薬学部 実務実習実施委員会

薬学部 基礎学力向上委員会

薬学部 ワークショップ委員会

オープンキャンパス

氏名 水谷 征法 (Masanori MIZUTANI)
所属 薬学部薬学科
職種 助教
生年月日 1981年4月21日

[履歴]

[学歴]

2004年3月 青森大学生物工学科 卒業
2010年3月 岩手大学大学院連合農学研究科博士課程 修了

[学位]

2010年3月 博士(農学)

[職歴]

2010年4月 盛岡大学栄養科学部 博士研究員
2012年4月 金沢大学薬学系 博士研究員
2015年4月 青森大学薬学部 助教(現在に至る)

[受賞]

第226回(平成20年度)日本作物学会講演会「最優秀ポスター賞」

受賞者 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史

内容 イネ胚乳形成初期における新規サイクリン依存性キナーゼ阻害因子の発現

[所属学会]

分子生物学会

[教育活動]

[担当科目]

基礎薬学実習
分析化学・放射科学実習(分担)、微生物・衛生科学実習(分担)、薬剤学実習(分担)

[卒業研究指導]

なし

[ゼミ指導]

なし

[教育指導に関する特記事項]

なし

[研究活動]

[研究テーマ]

- 1, Baculovirus dual expression system (BDES)を用いたガンワクチンの開発研究
- 2, Gタンパク質共役受容体(GPCR)の機能解析

[論文]

- 1, Mizutani, M., Naganuma, T., Tsutsumi, KI., and Saitoh, Y. The Syncytium Specific Expression of The Orysa;KRP3 CDK Inhibitor: Implication in Its Involvement in The Cell Cycle Control in The Rice Syncytial Endosperm. Journal of Experimental Botany 61, 791-798 (2010).
- 2, Mizutani, M., Mukaiyama, K., Xiao, J., Mori, M., Satou, R., Narita, S., Okuda, S. and Tokuda, H. Functional differentiation of structurally similar membrane subunits of the ABC transporter LolCDE complex. FEBS Lett. 587, 23-29 (2013).
- 3, Mizutani, M., Iyori M., Blagborough, AM., Fukumoto, S., Funatsu, T., Sinden, RE. and Yoshida, S. Baculovirus-Vectored Multistage Plasmodium vivax Vaccine Induces

Both Protective and Transmission-blocking Immunities against Transgenic Rodent Malaria Parasites. *Infect. Immunol.* 82, 4348-57 (2014).

4, Sala, K., Nishiura, H., Upton, L., Zakutansky, S., Delves, M., Iyori, M., Mizuatani, M., Sinden, RE., Yoshida, S. and Blagborough, AM. The Plasmodium berghei sexual stage antigen PSOP12 induces anti-malarial transmission blocking immunity both in vivo and in vitro. *Vaccine* 33, 437-445 (2015).

[学会発表]

1, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ Cyclin-dependent kinase inhibitor (CKI) 遺伝子の同定・発現解析 日本分子生物学会 2006 フォーラム (名古屋)

2, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ新規 CDK inhibitor の発現解析 第 30 回日本分子生物学会年会 第 80 回日本生化学会大会 合同大会 (横浜)

3, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 種子形成過程におけるイネ新規 CDK inhibitor の発現時期および部位の解析 日本農芸化学学会 2008 年度大会 (名古屋)

4, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳の核内倍化時期におけるサイクリンおよび CDK インヒビターの発現部位の解析 日本生化学会東北支部会 74 回例会・シンポジウム (盛岡)

5, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳形成初期における新規サイクリン依存性キナーゼ阻害因子の発現 第 226 回 日本作物学会講演会 (神戸)

6, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳形成初期における新規サイクリン依存性キナーゼ阻害因子の発現解析 日本育種学会第 114 回講演会 (彦根)

7, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ種子における新規 CDK 阻害因子の発現解析 第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会 (神戸)

8, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳形成初期の多核体形成、細胞化と ESOCKI の時間的空間的発現変動 日本作物学会第 227 講演会 (筑波)

9, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳初期で発現する遺伝子の検索 日本育種学会第 116 回講演会 (札幌)

10, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳形成初期に発現する F-box ファミリー遺伝子の解析 第 32 回日本分子生物学会年会 (横浜)

11, 水谷征法、堤賢一、斎藤靖史 イネ胚乳形成初期のシンシチウムで特異的に発現する *Oryza*:KRP3 と相互作用する F-box タンパク質の同定 日本作物学会第 229 講演会 (宇都宮)

12, 水谷征法、向山啓太、徳田元 光架橋性人工アミノ酸 (pBPA) 導入による LolCDE-Pal 間相互作用の解析 日本農芸化学学会 2011 年度大会 (京都)

13, Mizutani, M., Mukaiyama, K. and Tokuda, H. Analysis of interaction between LolCDE and lipoproteins by photo-cross-linking. 4th congress of European Microbiologists FEMS 2011 (Geneva, Switzerland)

14, 水谷征法、舟津知宏、伊従光洋、Blagborough AM、福本晋也、Sinden RE、吉田栄人 非感染性ウイルスベクターを用いた三日熱マラリア感染防御-伝播阻止 2 価ワクチンの開発研究 第 11 回分子寄生虫・マラリアフォーラム (長崎)

15, 水谷征法、舟津知宏、伊従光洋、Blagborough AM、福本晋也、Sinden RE、吉田栄人 非感染性ウイルスベクターを用いたマルチステージ三日熱マラリアワクチンの開発研究 第 83 回日本寄生虫学会 (愛媛)

16, 水谷征法、舟津知宏、伊従光洋、Blagborough AM、福本晋也、Sinden RE、吉田栄人 感染防御-伝播阻止の両機能を搭載した三日熱マラリア 2 価ワクチンの開発 第 22 回分子寄生虫学ワークショップ/第 12 回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム 合同大会 (帯

広)

[その他の活動]

なし

[公開講座、講演、セミナー]

なし

[学内各種委員]

(薬学) 基礎学力向上委員会、CBT 運営委員会、学生実習委員会、共通機器運営委員会、
入試問題(化学)作成担当

氏名 三輪 将也 (MIWA Masaya)

所属 薬学部 薬学科

職種 助教

生年月日

[履 歴]

[学 歴]

2009年3月 名城大学大学院総合学術研究科総合学術専攻博士後期課程 修了

[学 位]

2009年3月 博士 (学術)

[職 歴]

名城大学 研究員

京都大学 特定研究員

青森大学薬学部 助教 (現職)

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本神経化学会、日本薬理学会、日本神経科学学会、Society for Neuroscience

[教育活動]

[担当科目]

薬理学実習、薬剤学実習、特別実習

[卒業研究指導]

特記事項なし

[ゼミ指導]

特記事項なし

[教育指導に関する特記事項]

特記事項なし

[研究活動]

[研究テーマ]

記憶形成、認知症の病態および治療薬の機序解明

[著書、論文、総説]

1: Hiramatsu M, Miwa M, Hashimoto K, Kawai S and Nomura N: Nociceptin/orphanin FQ reverses mecamylamine-induced learning and memory impairment as well as decrease in hippocampal acetylcholine release in the rat. *Brain Res.*, 1195: 96-103 (2008).

2: Miwa M, Shinki C, Uchida S and Hiramatsu M: Distinct effects of nociceptinanalogs on scopolamine-induced memory impairment in mice. *Eur. J. Pharmacol.*, 602: 328-333 (2009).

3: Miwa M, Uchida S, Horiba F, Takeshima H, Nabeshima T and Hiramatsu M: Nociceptin and its metabolite attenuate U0126-induced memory impairment through a nociceptin opioid peptide (NOP) receptor-independent mechanism. *Neurobiol. Learn. Mem.*, 93: 396-405 (2010).

4: Miwa M, Tsuboi M, Noguchi Y, Enokishima A, Nabeshima T and Hiramatsu M: Effects of betaine on lipopolysaccharide-induced memory impairment in mice and the involvement of GABA transporter 2. *J. Neuroinflammation*, 8: 153 (2011).

[学会発表]

1. Hiramatsu M, Kawai Y, Miwa M, Mamiya T and Nabeshima T: Improving effect of nociceptin on scopolamine-induced learning and/or memory impairment in ORL1 receptor knockout mice. International Narcotics Research Conference 2004/Kyoto (2004年7月)
2. 平松正行、三輪将也、橋本和樹、野村奈央: メカミラミン誘発学習・記憶障害に対するノシセプチンの作用. 第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学会大会合同大会 (2004年9月)
3. Hiramatsu M, Miwa M, Hashimoto K and Nomura N: Reversion of mecamylamine-induced acetylcholine decrease in rat hippocampus and learning and memory impairment by nociceptin/orphanin FQ. The 34th annual meeting of the Society for Neuroscience (2004年10月)
4. 三輪将也、野村奈央、橋本和樹、平松正行: Mecamylamine 誘発学習・記憶障害およびラット海馬内アセチルコリン遊離量の減少に対する nociceptin の効果. 第8回ニコチン・薬物依存研究フォーラム学術年会 (2005年3月)
5. 平松正行、三輪将也、新木智映子、河合慶明: ORL1 受容体非依存的なノシセプチンによる学習・記憶障害改善作用. 第78回日本薬理学会年会 (2005年3月)
6. Hiramatsu M, Miwa M, Shinki C, Kawai Y and Kameyama T: Nociceptin improves learning and memory by acting on ORL1 receptor-independent mechanisms. The 35th annual meeting of the Society for Neuroscience (2005年11月)
7. 三輪将也、田村洋明、鍋島俊隆、平松正行: Effects of nociceptin on β -amyloid peptide (25-35)-induced learning and memory impairment. 第28回日本生物学的精神医学会・第36回日本神経精神薬理学会・第49回日本神経化学会大会合同年会 (2006年9月)
8. 三輪将也、岩田合郁、平松正行: Lipopolysaccharide 誘発記憶障害に対するベタイン、カテキンの作用. 第80回日本薬理学会年会 (2007年3月)
9. 平松正行、三輪将也、内田将吾、笈裕介、岩田合郁: ストレス負荷またはリポポリサッカライド (LPS) 投与による学習・記憶障害モデルマウスに対するカテキンおよびベタインの効果. 第9回応用薬理シンポジウム (2007年9月)
10. Miwa M, Uchida S and Hiramatsu M: Nociceptin improves impairment of learning and memory mediated by MEK/ERK pathway. The 37th annual meeting of the Society for Neuroscience (2007年11月)
11. 高橋ゆかり、天野杏南、三輪将也、鍋島俊隆、平松正行: 拘束水浸ストレスによる学習・記憶障害と関与するメカニズムについて. 第17回神経行動薬理若手研究者の集い (2008年3月)
12. 三輪将也、坪井美月、野口祐美子、鍋島俊隆、平松正行: リポポリサッカライドによる記憶障害及び炎症性マーカーの遺伝子発現に対するベタインの作用. 第81回日本薬理学会年会 (2008年3月)
13. 内田将吾、藤井久美、三輪将也、鍋島俊隆、平松正行: 低用量ノシセプチンの海馬内投与による学習・記憶障害改善作用と細胞内情報伝達系の関与. 第81回日本薬理学会年会 (2008年3月)
14. Miwa M, Uchida S, Horiba F, Fujii K, Nabeshima T and Hiramatsu M: Nociceptin improves long-term memory impairment induced by a MEK inhibitor, but not a PKA inhibitor. International Symposium on Brain Development and Neuropsychiatric Disorders (2008年9月)
15. 三輪将也、天野杏南、川村美緒、鍋島俊隆、平松正行: 拘束水浸ストレスによって惹

起される記憶障害とその機構. 名城大学学術フロンティア推進事業 第1回若手研究者シンポジウム (2009年3月)

16. 高橋ゆかり、天野杏南、川村美緒、三輪将也、鍋島俊隆、平松正行: 拘束水浸ストレスによる学習・記憶障害における炎症性サイトカインの関与. 第82回日本薬理学会年会 (2009年3月)

17. 三輪将也、堀場史加、内田将吾、鍋島俊隆、平松正行: ノシセプチン及びノシセプチン代謝物は MEK 阻害薬による記憶障害を NOP 受容体非依存的に改善する. 第82回日本薬理学会年会 (2009年3月)

18. 三輪将也、川村美緒、高橋ゆかり、天野杏南、鍋島俊隆、平松正行: 拘束水浸ストレス負荷による記憶障害に対するベタインの作用. 第11回応用薬理シンポジウム (2009年9月)

19. Hiramatsu M, Iwata A, Tsuboi M and Miwa M: Repeated administration of betaine or catechin prevents lipopolysaccharide-induced memory impairment in mice. The 39th annual meeting of the Society for Neuroscience (2009年10月)

20. Miwa M, Horiba F, Uchida S, Nabeshima T and Hiramatsu M: Nociceptin and its metabolite improve U0126-induced memory impairment through NOP receptor-independent mechanism. The 39th annual meeting of the Society for Neuroscience (2009年10月)

21. 木下沙織、木戸究、三輪将也、鍋島俊隆、平松正行: 拘束水浸ストレス負荷による記憶障害に対するベタインの改善作用における GABA transporter 2 (GAT2/BGT-1) の関与. 第84回日本薬理学会年会 (2011年3月)

22. 平松正行、木下沙織、木戸究、中島菜月、坪井純子、三輪将也、鍋島俊隆: グリシンベタインによる学習・記憶障害改善作用機序の解明. 生体機能と創薬シンポジウム 2011 (2011年9月)

23. Hiramatsu M, Miwa M, Tsuboi M, Noguchi Y, Enokishima A and Nabeshima T: Protective effects of betaine on lipopolysaccharide-induced memory impairment in mice and the involvement of GABA transporter 2. 28th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology (2012年6月)

[その他の活動]

特記事項なし

[公開講座、講演、セミナー]

特記事項なし

[学内各種委員]

基礎学力向上委員会、学生実習委員会、OSCE 運営委員会、事前学習実施委員会、共通機器運営委員会、動物センター運営委員会

氏名 多田 智美 (TADA Tomomi)

所属 薬学部

職種 助手

生年月日 1993年1月19日

[履歴]

[学歴]

2015年3月 岩手大学農学部応用生物化学課程 卒業

[学位]

学士(農学)

[職歴]

[受賞]

[所属学会]

[教育活動]

[担当科目]

有機化学・天然物科学実習、生化学実習、基礎薬学実習、薬学基礎実習 I

[研究活動]

[その他の活動]

[学内各種委員]

予算委員会、学生実習委員会